

平成 28 年度県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」
結果報告書等における回答者数及び有効回答数について

平成 30 年 9 月 5 日
公立大学法人福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター

平成 28 年度県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の結果報告書等について、第 31 回「県民健康調査」検討委員会にて報告した回答者数及び有効回答数を下記のとおり訂正して報告します。

記

1 回答者数について

平成 23 年度調査以降、結果報告書等については、調査票送付日から 10 月 31 日までを集計対象期間として報告をしてきました。

平成 28 年度結果については、集計期間を平成 29 年 2 月 2 日から平成 29 年 10 月 31 日までとして報告するところ、実際には、数値について平成 30 年 1 月 22 日までの分を含めて集計し、全体で 46 人多く報告しました。

平成 29 年 2 月 2 日から平成 29 年 10 月 31 日までの集計数値については、別添の結果報告書等のとおり訂正し、報告します。

	既報告値 (～1/22)	修正値 (～10/31)	差
0歳～3歳	799 (21. 8)	798 (21. 8)	△1
4歳～6歳	889 (21. 2)		
小学生	2, 234 (21. 3)	2, 231 (21. 3)	△3
中学生	1, 005 (17. 2)	1, 002 (17. 2)	△3
(小計)	4, 927 (20. 4)	4, 920 (20. 3)	△7 (△0. 1)
一般	37, 569 (20. 4)	37, 530 (20. 4)	△39
計	42, 496 (20. 4)	42, 450 (20. 4)	△46

2 有効回答数について

上記に併せ、結果報告書等における一般の有効回答数について訂正します。
集計から除外すべきケースが 1 件と、集計対象とすべきケースが 2 件ありました。
訂正後の数値は、別添の結果報告書等のとおりです。

	既報告値	修正値	差
一般	37, 465 (20. 4)	37, 466 (20. 4)	+1
計	42, 363 (20. 4)	42, 364 (20. 4)	+1

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」結果概要

1. 目 的

平成 23 年 3 月 11 日発生の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故以降、放射線への不安、避難生活、財産の喪失及び恐怖体験等により、精神的苦痛や心的外傷(トラウマ)を負った県民のこころの健康度や生活習慣を把握し、適切なケアを提供するため、平成 23 年度から県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」を実施し、支援を行っている。

平成 23 年度から平成 27 年度の調査結果を踏まえ、引き続きこころの健康状態及び生活習慣の推移を見守り、継続して支援を行うことを目的とした。

2. 方 法

(1)対 象

- ・平成 23 年 3 月 11 日から平成 24 年 4 月 1 日までに避難区域等に住民登録をしていた方。
なお、この方については、避難区域等を転出後も対象とする。
- ・平成 28 年 4 月 1 日時点で避難区域等に住民登録をしていた方。
- ・上記以外で、基本調査の結果必要と認められた方。

208,044 人(平成 29 年 10 月 31 日現在)

[避難区域等]

広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村、南相馬市、田村市、川俣町の全域及び伊達市の一部(特定避難勧奨地点関係地区)

0 歳～3 歳用	:平成 25 年 4 月 2 日から平成 28 年 4 月 1 日までに生まれた方	3,668 人
4 歳～6 歳用	:平成 22 年 4 月 2 日から平成 25 年 4 月 1 日までに生まれた方	4,194 人
小学生用	:平成 16 年 4 月 2 日から平成 22 年 4 月 1 日までに生まれた方	10,479 人
中学生用	:平成 13 年 4 月 2 日から平成 16 年 4 月 1 日までに生まれた方	5,837 人
一般用	:平成 13 年 4 月 1 日以前に生まれた方	183,866 人

(2)方 法

調査票(自記式または保護者回答)を郵送した。

(3)集計対象期間

平成 29 年 2 月 2 日から平成 29 年 10 月 31 日までとした。

(4)回答者数および有効回答数

回答者数(回答率)は、0 歳～3 歳用が 798 人(21.8%)、4 歳～6 歳用が 889 人(21.2%)、小学生用が 2,231 人(21.3%)、中学生用が 1,002 人(17.2%)、一般用が 37,530 人(20.4%)であった。

有効回答数(有効回答率)は、0 歳～3 歳用が 798 人(21.8%)、4 歳～6 歳用が 889 人(21.2%)、小学生用が 2,209 人(21.1%)、中学生用が 1,002 人(17.2%)、一般用が 37,466 人(20.4%)であった。

調査区分ごとに、各項目について結果を集計した。集計結果は、結果報告書のとおりである。なお、各項目に欠損値があるため、合計は上記有効回答数と一致しない場合がある。また、結果報告書の割合(%)は、端数処理を行っているため、合計が 100%にならない場合がある。

3. 結 果

(1)0歳～3歳

- ・ 対象 3,668 人のうち、有効回答数は 798 人(21.8%)であった。
- ・ 健康状態は、99.4%が特に問題はない(「きわめて良好」、「良好」、「普通」と回答しており全体として良好な結果が得られ、平成 27 年度調査(98.7%)と比較し、わずかに増加した。
- ・ 平均睡眠時間は 9 時間 53 分、平均昼寝時間は 1 時間 54 分であり、平成 27 年度調査(平均睡眠時間 9 時間 52 分、平均昼寝時間 1 時間 56 分)と同程度であり、同年代の全国調査¹⁾における幼稚園年少児(3 歳児)の睡眠時間(10 時間 7 分)と比べても大きな違いはなかった。

(2)4歳～6歳

- ・ 対象 4,194 人のうち、有効回答数は 889 人(21.2%)であった。
- ・ 健康状態は、99.5%が特に問題はない(「きわめて良好」、「良好」、「普通」と回答しており全体として良好な結果が得られ、平成 27 年度調査(99.1%)と比較し、同程度であった。
- ・ 運動習慣では、普段運動を「ほとんどしていない」が 3.5%と、平成 27 年度調査(4.6%)と比べて、減少傾向にあった。
- ・ 平均睡眠時間は 9 時間 37 分、平均昼寝時間は 1 時間 33 分であり、睡眠時間と平均昼寝時間は平成 27 年度調査(平均睡眠時間 9 時間 40 分、平均昼寝時間 1 時間 30 分)と同程度であり、同年代の全国調査¹⁾における幼稚園年長児(5 歳児)の睡眠時間(9 時間 55 分)と比べても大きな違いはなかった。
- ・ 子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版)は、有効回答 888 人のうち、先行研究のスクリーニング得点である 16 点以上が 11.1%、支援基準である 20 点以上が 3.9%であった。これは平成 27 年度調査(16 点以上 10.8%、20 点以上 3.2%)と比較すると、16 点以上の割合は同程度であったが、20 点以上の割合はわずかに増加傾向にあった。

男女別にみると男児では有効回答 432 人のうち、16 点以上が 13.0%、20 点以上が 4.6%であり、平成 27 年度調査(16 点以上 12.5%、20 点以上 3.8%)と比べて 16 点以上、20 点以上ともに、わずかに増加傾向にあった。女児では有効回答 456 人のうち、16 点以上が 9.4%、20 点以上が 3.3%であり、平成 27 年度調査(女児:16 点以上 9.1%、20 点以上 2.6%)と比べて、16 点以上は同程度であったが、20 点以上はわずかに増加傾向にあった。

16 点以上の割合を調査時住所別にみると、県内では有効回答 710 人のうち 10.4%、県外では有効回答 178 人のうち 14.0%であった。平成 27 年度調査(県内 10.9%、県外 10.5%)と比べ、県内の割合はわずかに減少し、県外の割合は増加傾向にあった。

(3)小学生

- ・ 対象 10,479 人のうち、有効回答数は 2,209 人(21.1%)であった。
- ・ 健康状態は、98.9%が特に問題はない(「きわめて良好」、「良好」、「普通」と回答しており、全体として良好な結果が得られ、平成 27 年度調査(98.7%)と同程度であった。

- ・ 運動習慣は体育以外の運動を「ほとんどしていない」が 32.8%と、平成 27 年度調査(30.5%)と比べて、増加傾向にあった。平成 25 年度の全国調査で示された、学校の体育の授業以外で運動を「ときたま」または「しない」と回答した群が男児 11.8%、女児 23.4%という報告³⁾と比較すると、運動習慣が少ない傾向が認められた。
- ・ 睡眠時間は、平均で 8 時間 52 分であった。これは平成 27 年度調査(8 時間 54 分)と同程度であり、全国調査²⁾と比べて(男児:9 時間 00 分、女児:8 時間 56 分)同程度であった。
- ・ SDQ は、有効回答 2,207 人のうち、16 点以上が 12.6%、20 点以上が 4.6%であった。これは平成 27 年度調査(16 点以上 13.7%、20 点以上 5.7%)と比較すると、16 点以上の割合、20 点以上の割合ともに減少傾向であった。

男女別にみると男児では有効回答 1,109 人のうち、16 点以上が 15.0%、20 点以上が 6.4%であり、平成 27 年度(16 点以上 15.8%、20 点以上 7.0%)と比べて 16 点以上、20 点以上ともにわずかに減少傾向にあった。女児では有効回答 1,098 人のうち、16 点以上が 10.3%、20 点以上が 2.8%であり、平成 27 年度(16 点以上 11.4%、20 点以上 4.3%)と比べて、いずれも減少傾向にあった。

16 点以上の割合を調査時住所別にみると、県内では有効回答 1,681 人のうち 12.0%、県外では有効回答 526 人のうち 14.8%であった。平成 27 年度調査(県内 12.5%、県外 17.1%)と比べ、県内、県外ともに減少傾向にあった。

(4)中学生

- ・ 対象 5,837 人のうち、有効回答は 1,002 人(17.2%)であった。
- ・ 健康状態は、96.9%が特に問題はない(「きわめて良好」、「良好」、「普通」と回答しており、全体として良好な結果が得られ、平成 27 年度調査(97.1%)と同程度であった。
- ・ 運動習慣は体育以外の運動を「ほとんどしていない」が 30.8%であり、平成 27 年度調査(29.3%)に比べて増加した。
- ・ 睡眠時間は、平均で 7 時間 6 分であり、平成 27 年度調査(7 時間 7 分)と同程度であった。
- ・ SDQ は、有効回答数 915 人のうち、16 点以上が 12.3%、20 点以上が 4.9%であった。これは平成 27 年度調査(16 点以上 11.6%、20 点以上 4.5%)と比較すると、16 点以上の割合はわずかに増加、20 点以上の割合は同程度であった。

男女別にみると男子では有効回答 483 人のうち、16 点以上が 13.7%、20 点以上が 6.0%であり、平成 27 年度調査(16 点以上 11.6%、20 点以上 4.6%)と比べて、いずれも増加傾向であったが、女子では有効回答数 432 人のうち、16 点以上が 10.9%、20 点以上が 3.7%であり、平成 27 年度調査(16 点以上 11.6%、20 点以上 4.5%)と比べて、いずれもわずかに減少傾向であった。

16 点以上の割合を調査時住所別にみると、県内では有効回答 724 人のうち 11.0%、県外では有効回答 191 人のうち 17.3%であった。平成 27 年度調査(県内 10.9%、県外 13.9%)と比べ、県内は同程度、県外は増加傾向にあった。

〈子ども全体のまとめ〉

- ・ 運動習慣については運動をほとんどしていない群の割合は増加傾向にあることが示唆された。
- ・ 睡眠時間は平成 27 年度調査と同程度であった。
- ・ 子どものこころの健康度を評価する指標として SDQ を用いた。日本の被災していない一般人口を対象とした先行研究⁴⁾における SDQ16 点以上の割合(9.5%)と比較すると、全ての調査区分で依然として高かった。平成 27 年度調査と比べると、各調査区分、性別、調査時住所別によって増加と減少はばらつきが見られた。

(5)一般（平成 13 年 4 月 1 日以前に生まれた方）

- ・ 対象 183,866 人のうち、有効回答数は 37,466 人(20.4%)であった。
- ・ 健康状態は、83.0%が特に問題はない(「きわめて良好」、「良好」、「普通」と回答しており、平成 27 年度調査(82.9%)と同程度であった。
- ・ 睡眠については、60.7%の方が不満を持っていたと回答し、平成 27 年度調査(60.5%)と同程度であった。
- ・ 運動については「ほとんどしていない」方が 42.2%であり、平成 27 年度調査(42.7%)と比較して、やや減少した。

- ・ 現在喫煙者は 15.4%であり、平成 27 年度調査(16.8%)と比較して減少した。

現在飲酒者は 41.1%であり、平成 27 年度調査(41.0%)と同程度であり、多量飲酒者(1 日 2 合以上飲酒)の割合は 8.2%であり、平成 27 年度調査(7.8%)と同程度であった。問題飲酒者の割合を男女別にみると、男性は 17.1%、女性は 9.2%で、平成 27 年度調査(男性:17.2%、女性:9.0%)と同程度であった。

- ・ 平成 28 年度調査で K6 が 13 点以上であった割合は 6.8%であり、平成 27 年度調査(7.1%)と同程度であった。平常時の日本の地域住民では 3.0%が該当したと報告されており⁵⁾、平常時の日本の地域住民よりは依然として高い値を示していた。男性の 13 点以上が 6.4%であったのに対し、女性の方が 7.2%と高く、この傾向は平成 27 年度調査と同様であった。年齢別では、20 代で 13 点以上が 8.8%と最も高く、60 代で 4.9%と最も低かった。平成 27 年度調査との比較では、10 代で 13 点以上の割合が増加しており、70 代以上では割合が減少していた。それ以外の年代ではほぼ同じ割合だった。

13 点以上の割合を調査時住所別にみると、県内では有効回答 26,975 人のうち 6.4%、県外では有効回答 4,662 人のうち 9.4%であり、平成 27 年度調査(県内 6.6%、県外 9.7%)と同程度であった。

- ・ トラウマ反応をみるための PCL-4 は、12 点以上が 9.9%であった。男性の 12 点以上が 9.0%であったのに対し、女性の方が 10.7%と高かった。年齢別では、70 代以上が 15.5%と最も高く、10 代が 3.0%と最も低かった。

12 点以上の割合を調査時住所別にみると、県内では有効回答 25,746 人のうち 9.6%、県外では有効回答 4,517 人のうち 11.7%であった。

- ・ 放射線の健康影響についての認識については、がんの発症など後年に生じる健康障害(後年影響)の「可能性は極めて低い」と回答したのは 34.8%、「可能性は低い」は 32.7%、「可能性は

高い」は18.5%、「可能性は非常に高い」は14.0%であった。平成27年度調査(可能性は高い:19.0%、可能性は非常に高い:13.8%)と比べて、可能性が高い又は非常に高いと回答した方の割合は同程度であった。

- ・ 将来生まれてくる自分の子や孫など次世代以降の人への影響(次世代影響)が起こる「可能性は極めて低い」と回答したのは31.0%、「可能性は低い」は32.9%、「可能性は高い」は20.9%、「可能性は非常に高い」は15.2%であった。平成27年度調査(可能性は高い:22.0%、可能性は非常に高い:15.6%)と比べて、可能性が高い又は非常に高いと回答した方の割合は減少傾向にあった。
- ・ ころや身体の問題が生じた場合の相談先は、「ある」が89.1%、「ない」が10.9%であった。「ある」と回答した方の相談先(複数回答)は、「家族・親戚」が28,329人と最も多く、続いて「友人・知人」が15,591人、「精神科以外の医療機関」が8,464人であった。平成27年度調査(ある73.8%)と比べて増加傾向にあった。

参考文献

- 1) 無藤隆ら. 幼児期から小学1年生の家庭教育調査 報告書(2012) ベネッセ教育総合研究所
<http://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=3200>
- 2) 平成26年度児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書(2016) 財団法人日本学校保健会
http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H280010/index_h5.html#37
- 3) 平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果・特徴(小学校)(2013) 文部科学省
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/_icsFiles/fieldfile/2013/12/20/1342603_5.pdf
- 4) Matsuishi T, et al. (2008) Scale properties of the Japanese version of the Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ): a study of infant and school children in community samples. *Brain and Development*. 30: 410-415.
日本におけるSDQ(保護者評価)の標準値(4-12歳、2,899名のデータを分析)
地域:不明、5つの小学校でリクルート(回答率:97.0%)
年齢:4歳から12歳
人数:2899人(男子:1463人;女子:1436人)
- 5) 川上憲人. 全国調査におけるK6調査票による心の健康状態の分布と関連要因. 平成18年度厚生労働科学研究費補助金(統計情報高度利用総合研究事業)国民の健康状況に関する統計情報を世帯面から把握・分析するシステムの検討に関する研究. 分担研究書
日本におけるK6の標準値(全国150地点、20-74歳、1,183名のデータを分析)
地域:全国 150地点
年齢:20歳~74歳
人数:1,183人

平成28年度 県民健康調査

「こころの健康度・生活習慣に関する調査」

結果報告書

福島県立医科大学

放射線医学県民健康管理センター

(平成30年6月訂正版)

【 目 次 】

平成 28 年度 県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」集計結果

集 計 結 果	②- 9
0 歳～3 歳用	②-11
4 歳～6 歳用	②-13
小 学 生 用	②-17
中 学 生 用	②-21
一 般 用	②-25

平成 28 年度 県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」資料

0 歳～3 歳用	②-37
4 歳～6 歳用	②-38
小 学 生 用	②-39
中 学 生 用	②-40
一 般 用	②-41

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」集計結果

1. 目 的

平成 23 年 3 月 11 日発生の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故以降、放射線への不安、避難生活、財産の喪失及び恐怖体験等により、精神的苦痛や心的外傷(トラウマ)を負った県民のこころの健康度や生活習慣を把握し、適切なケアを提供するため、平成 23 年度から県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」を実施し、支援を行っている。

平成 23 年度から平成 27 年度の調査結果を踏まえ、引き続きこころの健康状態及び生活習慣の推移を見守り、継続して支援を行うことを目的とした。

2. 方 法

(1) 対 象

- ・平成 23 年 3 月 11 日から平成 24 年 4 月 1 日までに避難区域等に住民登録をしていた方。
なお、この方については、避難区域等を転出後も対象とする。
- ・平成 28 年 4 月 1 日時点で避難区域等に住民登録をしていた方。
- ・上記以外で、基本調査の結果必要と認められた方。

208,044 人(平成 29 年 10 月 31 日現在)

[避難区域等]

広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村、南相馬市、田村市、川俣町の全域及び伊達市の一部(特定避難勧奨地点関係地区)

0 歳～3 歳用	:平成 25 年 4 月 2 日から平成 28 年 4 月 1 日までに生まれた方	3,668 人
4 歳～6 歳用	:平成 22 年 4 月 2 日から平成 25 年 4 月 1 日までに生まれた方	4,194 人
小学生用	:平成 16 年 4 月 2 日から平成 22 年 4 月 1 日までに生まれた方	10,479 人
中学生用	:平成 13 年 4 月 2 日から平成 16 年 4 月 1 日までに生まれた方	5,837 人
一般用	:平成 13 年 4 月 1 日以前に生まれた方	183,866 人

(2) 方 法

調査票(自記式または保護者回答)を郵送した。

(3) 集計対象期間

平成 29 年 2 月 2 日から平成 29 年 10 月 31 日までとした。

(4) 回答者数および有効回答数

回答者数(回答率)は、0 歳～3 歳用が 798 人(21.8%)、4 歳～6 歳用が 889 人(21.2%)、小学生用が 2,231 人(21.3%)、中学生用が 1,002 人(17.2%)、一般用が 37,530 人(20.4%)であった。有効回答数(有効回答率)は、0 歳～3 歳用が 798 人(21.8%)、4 歳～6 歳用が 889 人(21.2%)、小学生用が 2,209 人(21.1%)、中学生用が 1,002 人(17.2%)、一般用が 37,466 人(20.4%)であった(表 1)。

調査区分ごとに、各項目について結果を集計した。集計結果は、結果報告書のとおりである。なお、各項目に欠損値があるため、合計は上記有効回答数と一致しない場合がある。また、結果報告書の割合(%)は、端数処理を行っているため、合計が 100%にならない場合がある。

表 1 各年度の質問紙調査における対象数、回答者数および有効回答数(割合)

		平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	
対象数	0 歳～3 歳	3,668	3,697	3,842	4,164	4,625	子ども①	11,717
	4 歳～6 歳	4,194	4,803	5,103	5,169	5,047		
	小学生	10,479	10,655	10,861	11,167	11,413	子ども②	11,791
	中学生	5,837	5,987	6,066	6,013	6,023	子ども③	6,077
	(小計)	(24,178)	(25,142)	(25,872)	(26,513)	(27,108)	(小計)	29,585
	一般	183,866	184,758	186,881	185,859	184,507	一般	180,604
	計	208,044	209,900	212,753	212,372	211,615	計	210,189
回答者数(%)	0 歳～3 歳	798 (21.8)	944 (25.5)	1,077 (28.0)	1,635 (39.3)	2,143 (46.3)	子ども①	7,824 (66.8)
	4 歳～6 歳	889 (21.2)	1,348 (28.1)	1,478 (29.0)	2,033 (39.3)	2,231 (44.2)		
	小学生	2,231 (21.3)	2,767 (26.0)	2,887 (26.6)	4,005 (35.9)	4,703 (41.2)	子ども②	7,509 (63.7)
	中学生	1,002 (17.2)	1,387 (23.2)	1,376 (22.7)	1,822 (30.3)	2,126 (35.3)	子ども③	3,412 (56.1)
	(小計)	(4,920 (20.3))	(6,446 (25.6))	(6,818 (26.4))	(9,495 (35.8))	(11,203 (41.3))	(小計)	18,745 (63.4)
	一般	37,530 (20.4)	44,010 (23.8)	43,845 (23.5)	46,388 (25.0)	55,076 (29.9)	一般	73,569 (40.7)
	計	42,450 (20.4)	50,456 (24.0)	50,663 (23.8)	55,883 (26.3)	66,279 (31.3)	計	92,314 (43.9)
有効回答数(%)	0 歳～3 歳	798 (21.8)	944 (25.5)	1,077 (28.0)	1,634 (39.2)	2,143 (46.3)	子ども①	7,818 (66.7)
	4 歳～6 歳	889 (21.2)	1,348 (28.1)	1,478 (29.0)	2,032 (39.3)	2,230 (44.2)		
	小学生	2,209 (21.1)	2,740 (25.7)	2,859 (26.3)	3,987 (35.7)	4,683 (41.0)	子ども②	7,464 (63.3)
	中学生	1,002 (17.2)	1,387 (23.2)	1,324 (21.8)	1,820 (30.3)	2,118 (35.2)	子ども③	3,411 (56.1)
	(小計)	(4,898 (20.3))	(6,419 (25.5))	(6,738 (26.0))	(9,473 (35.7))	(11,174 (41.2))	(小計)	18,693 (63.2)
	一般	37,466 (20.4)	43,970 (23.8)	43,811 (23.4)	46,377 (25.0)	55,064 (29.8)	一般	73,433 (40.7)
	計	42,364 (20.4)	50,389 (24.0)	50,549 (23.8)	55,850 (26.3)	66,238 (31.3)	計	92,126 (43.8)

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（0 歳～3 歳用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査(0 歳～3 歳用)の対象 3,668 人のうち、有効回答は 798 人(21.8%)であり、うちオンライン回答は 64 人(8.0%)であった。

性別は、男児 404 人(50.6%)、女児 394 人(49.4%)で、平均年齢は 1.9 歳であった。

調査時住所は、県内 722 人(90.5%)、県外 76 人(9.5%)であった。

1. お子様の健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 315 人(40.3%)、「良好」が 338 人(43.2%)、「普通」が 124 人(15.9%)、「悪い」が 5 人(0.6%)、「きわめて悪い」が 0 人(0.0%)であった。

2. お子様の現在の身長と体重について（問 2）

男児の身長・体重の平均は、1 歳(平成 29 年 4 月 1 日時点)79.4cm・10.3kg、2 歳 87.8cm・12.9kg、3 歳 95.8cm・15.0kg であった。女児の身長・体重の平均は、1 歳 77.4cm・9.8kg、2 歳 87.0cm・12.2kg、3 歳 94.5cm・14.1kg であった。

3. 治療中の病気等について（問 3）

治療中の病気等は、「ない」が 573 人(72.7%)、「ある」が 215 人(27.3%)であった。

「ある」と回答した方の内訳(複数回答)は、表 2 のとおりであった。

4. 1 年以内の入院の経験について（問 4）

この 1 年以内の入院の経験は、「ない」が 680 人(85.6%)、「ある」が 114 人(14.4%)であった。

「ある」と回答した方の内訳(複数回答)は、表 3 のとおりであった。

表 2 治療中の病気等の内訳

病名	人数
風邪	75
アトピー性皮膚炎	47
喘息	26
中耳炎	25
喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性 鼻炎以外のアレルギー性疾患	17
アレルギー性鼻炎	15
歯科疾患	15
インフルエンザ	8
副鼻腔炎・蓄膿症	3
ADHD	1
てんかん	0
その他	30

(複数回答)

表 3 この 1 年以内の入院時の病気の内訳

病名	人数
風邪	55
RSウイルス感染症	17
肺炎	15
インフルエンザ	11
胃腸炎	11
熱性けいれん	10
気管支炎	8
喘息	5
マイコプラズマ肺炎	3
ロタウイルス感染症	3
鼠径ヘルニア	3
川崎病	1
その他	25

(複数回答)

5. 睡眠時間と昼寝の有無について（問5）

- 1) 就寝時刻は、平均で午後9時7分であり、起床時刻は午前7時0分であった。睡眠時間は、平均で9時間53分であった。
- 2) 昼寝の有無（お子様はお昼寝をしますか）は、「いいえ」が81人（10.2%）、「はい」が714人（89.8%）であった。昼寝時間は、平均で1時間54分であった。

6. 普段の運動量について（問6）

運動（普段、運動をどのくらいしていますか（調査票記入時点で2歳以上））は、「ほとんど毎日している」が274人（54.5%）、「週に2～4回している」が155人（30.8%）、「週1回程度している」が57人（11.3%）、「ほとんどしていない」が17人（3.4%）であった。

7. 食生活について（問7）

- 1) 母乳（お子様は母乳を飲んでいますか）は、「はい」が120人（15.1%）、「いいえ」が674人（84.9%）であった。
- 2) 最近1ヶ月間の食事について（調査票記入時点で1歳以上）は、表4のとおりであった。

表4 最近1ヶ月間の食事について

	はい	いいえ	有効回答
1. 魚介類を食べる日は、週に3日以上ですか	404 (53.1%)	357 (46.9%)	761
2. 漬物以外の野菜・海藻・きのこ類をほぼ毎食食べますか	541 (71.1%)	220 (28.9%)	761
3. 果物をほぼ毎日食べますか	472 (62.2%)	287 (37.8%)	759
4. 大豆製品をほぼ毎日食べますか	531 (69.8%)	230 (30.2%)	761
5. 乳製品をほぼ毎日とりますか	623 (81.9%)	138 (18.1%)	761

8. 育児について（問8）

育児（育児に自信がもてないことがありますか）は、「はい」が87人（10.9%）、「いいえ」が368人（46.2%）、「何ともいえない」が341人（42.8%）であった。

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（4 歳～6 歳用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査(4 歳～6 歳用)の対象 4,194 人のうち、有効回答は 889 人(21.2%)であり、うちオンライン回答は 56 人(6.3%)であった。

性別は、男児 432 人(48.6%)、女児 457 人(51.4%)で、平均年齢は 5.1 歳であった。

調査時住所は、県内 710 人(79.9%)、県外 179 人(20.1%)であった。

1. お子様の健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 288 人(34.0%)、「良好」が 322 人(38.0%)、「普通」が 234 人(27.6%)、「悪い」が 4 人(0.5%)、「きわめて悪い」が 0 人(0.0%)であった。

2. お子様の現在の身長と体重について（問 2）

男児の身長・体重の平均は、4 歳(平成 29 年 4 月 1 日時点)102.3cm・16.4kg、5 歳 109.4cm・18.9kg、6 歳 116.1cm・21.8kg であった。女児の身長・体重の平均は、4 歳 103.0cm・16.9kg、5 歳 108.5cm・18.3kg、6 歳 114.7cm・20.6kg であった。

3. 治療中の病気等について（問 3）

治療中の病気等は、「ない」が 548 人(62.1%)、「ある」が 334 人(37.9%)であった。

「ある」と回答した方の内訳(複数回答)は、表 5 のとおりであった。

4. 1 年以内の入院の経験について（問 4）

この 1 年以内の入院の経験は、「ない」が 789 人(89.4%)、「ある」が 94 人(10.6%)であった。

「ある」と回答した方の内訳(複数回答)は、表 6 のとおりであった。

表 5 治療中の病気等の内訳

病名	人数
アレルギー性鼻炎	80
喘息	69
アトピー性皮膚炎	59
風邪	57
歯科疾患	51
中耳炎	31
喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎以外のアレルギー性疾患	21
副鼻腔炎・蓄膿症	19
インフルエンザ	15
ADHD	11
てんかん	1
その他	44

(複数回答)

表 6 この 1 年以内の入院時の病気の内訳

病名	人数
風邪	48
胃腸炎	19
喘息	11
インフルエンザ	11
肺炎	8
気管支炎	6
熱性けいれん	5
マイコプラズマ肺炎	4
鼠径ヘルニア	4
RSウイルス感染症	3
ロタウイルス感染症	0
川崎病	0
その他	22

(複数回答)

5. 睡眠時間と昼寝の有無について（問5）

- 1) 就寝時刻は、平均で午後9時11分であり、起床時刻は午前6時49分であった。睡眠時間は、平均で9時間37分であった。
- 2) 昼寝の有無（お子様はお昼寝をしますか）は、「いいえ」が561人（63.4%）、「はい」が324人（36.6%）であった。昼寝時間は、平均で1時間33分であった。

6. 普段の運動量について（問6）

運動（普段、運動をどのくらいしていますか）は、「ほとんど毎日している」が512人（57.7%）、「週に2～4回している」が263人（29.7%）、「週1回程度している」が81人（9.1%）、「ほとんどしていない」が31人（3.5%）であった。

7. 食生活について（問7）

最近1ヶ月間の食事については、表7のとおりであった。

表7 最近1ヶ月間の食事について

	速い	ふつう・遅い	有効回答
1. 人と比較して食べる速度が速いほうですか	79 (8.9%)	809 (91.1%)	888
	はい	いいえ	有効回答
2. 砂糖入りの飲料をほぼ毎日飲みますか	262 (29.5%)	627 (70.5%)	889
3. 魚介類を食べる日は、週に3日以上ですか	427 (48.0%)	462 (52.0%)	889
4. 漬物以外の野菜・海藻・きのこ類をほぼ毎食食べますか	603 (67.8%)	286 (32.2%)	889
5. 果物をほぼ毎日食べますか	483 (54.4%)	405 (45.6%)	888
6. 大豆製品をほぼ毎日食べますか	500 (56.3%)	388 (43.7%)	888
7. 乳製品をほぼ毎日とりますか	737 (82.9%)	152 (17.1%)	889
8. 惣菜や弁当など調理された食品を、ほぼ毎日食べますか	102 (11.5%)	787 (88.5%)	889
9. ほぼ毎日外食をしていますか	8 (0.9%)	881 (99.1%)	889

8. 子どもの情緒と行動について（問8）

- 1) 子どもの情緒と行動(子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版))は、有効回答888人のうち、16点^{※1}以上が99人(11.1%)、20点^{※2}以上が35人(3.9%)であった(図1)。平均総合得点は9.1点であった。
 男児では有効回答432人のうち、16点以上が56人(13.0%)、20点以上が20人(4.6%)であり、女児では有効回答456人のうち、16点以上が43人(9.4%)、20点以上が15人(3.3%)であった(図2)。平均総合得点は男児では9.7点、女児では8.5点であった。
- 2) 子どもが情緒、集中力、行動、他人との付き合いのいずれか1つ以上の領域において困難を抱えているかについて、「いいえ」が678人(76.4%)、「はい(ささいな困難)」が174人(19.6%)、「はい(明らかな困難)」が29人(3.3%)、「はい(深刻な困難)」が6人(0.7%)であった。
- 3) 2)で「はい」と回答した方のうち、子どもがその困難によって動揺したり、悩んだりしているかについて、「まったくない」が103人(50.0%)、「すこしだけ」が91人(44.2%)、「かなり」が10人(4.9%)、「大いに」が2人(1.0%)であった。

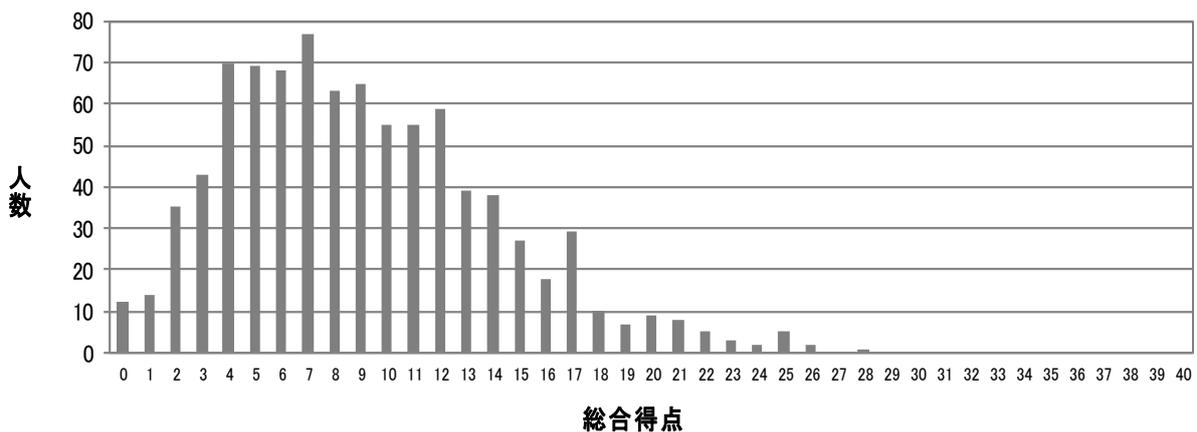


図1 4歳～6歳の子ども（全体）の情緒と行動(SDQ): 全体

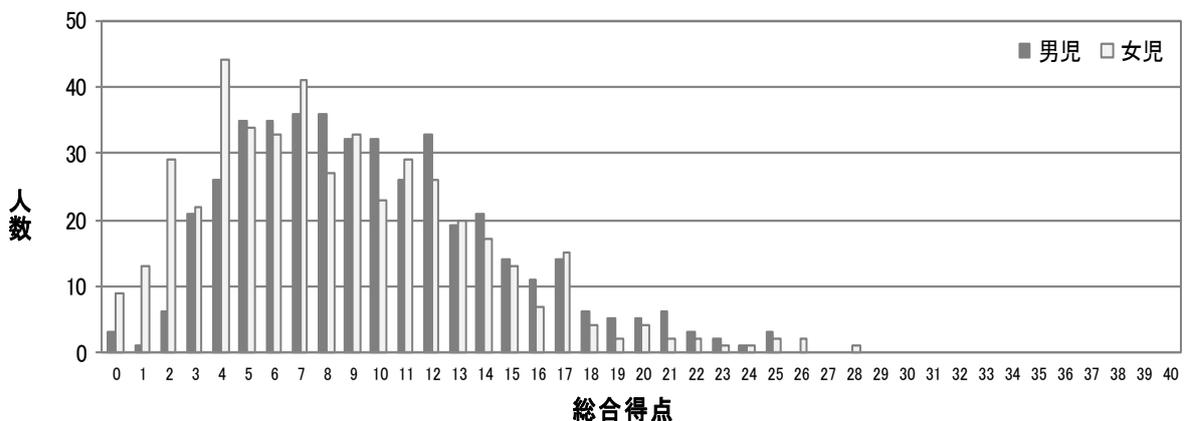


図2 4歳～6歳の子ども（男女別）の情緒と行動(SDQ): 男女別

※1 16点: 先行研究で示されている基準

※2 20点: 福島県立医科大学の医師等が支援を行うために設けた基準

9. 保育園・幼稚園について（問9）

保育園・幼稚園（保育園・幼稚園に行きたがらないことがありますか）について、「ある」が136人（15.3%）、「ない」が719人（81.2%）、「現在入園していない」が31人（3.5%）であった。

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（小学生用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査（小学生用）の対象 10,479 人のうち、有効回答は 2,209 人（21.1%）であり、うちオンライン回答は 147 人（6.7%）であった。

性別は、男児 1,110 人（50.2%）、女児 1,099 人（49.8%）で、平均年齢は 9.3 歳であった。

調査時住所は、県内 1,682 人（76.1%）、県外 527 人（23.9%）であった。

1. お子様の健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 546 人（26.8%）、「良好」が 854 人（41.9%）、「普通」が 615 人（30.2%）、「悪い」が 22 人（1.1%）、「きわめて悪い」が 0 人（0.0%）であった。

2. お子様の現在の身長と体重について（問 2）

男児の身長・体重の平均は、1 年生 121.7cm・24.1kg、2 年生 127.3cm・27.7kg、3 年生 134.3cm・32.1kg、4 年生 138.8cm・34.1kg、5 年生 144.8cm・38.5kg、6 年生 151.6cm・43.8kg であった。女児の身長・体重の平均は、1 年生 120.8cm・23.4kg、2 年生 125.8cm・25.9kg、3 年生 132.2cm・29.9kg、4 年生 139.2cm・34.0kg、5 年生 145.5cm・39.0kg、6 年生 149.9cm・41.8kg であった。

3. 治療中の病気等について（問 3）

治療中の病気等は、「ない」が 1,389 人（63.3%）、「ある」が 806 人（36.7%）であった。

「ある」と回答した方の内訳（複数回答）は、表 8 のとおりであった。

4. 1 年以内の入院の経験について（問 4）

この 1 年以内の入院の経験は、「ない」が 2,046 人（92.8%）、「ある」が 159 人（7.2%）であった。

「ある」と回答した方の内訳（複数回答）は、表 9 のとおりであった。

表 8 治療中の病気等の内訳

病名	人数
アレルギー性鼻炎	318
歯科疾患	193
アトピー性皮膚炎	128
喘息	87
風邪	66
喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎以外のアレルギー性疾患	62
副鼻腔炎・蓄膿症	46
ADHD	39
インフルエンザ	34
中耳炎	33
てんかん	13
その他	125

（複数回答）

表 9 この 1 年以内の入院時の病気の内訳

病名	人数
風邪	86
インフルエンザ	47
胃腸炎	22
喘息	16
マイコプラズマ肺炎	12
気管支炎	9
肺炎	5
ロタウイルス感染症	2
熱性けいれん	2
鼠径ヘルニア	2
RSウイルス感染症	1
川崎病	0
その他	27

（複数回答）

5. 睡眠時間について（問5）

就寝時刻は、平均で午後9時32分であり、起床時刻は午前6時24分であった。睡眠時間は、平均で8時間52分であった。

6. 普段の運動量について（問6）

運動（普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか）は、「ほとんど毎日している」が187人（8.5%）、「週に2～4回している」が690人（31.3%）、「週1回程度している」が603人（27.4%）、「ほとんどしていない」が724人（32.8%）であった。

7. 食生活について（問7）

最近1ヶ月間の食事については、表10のとおりであった。

表10 最近1ヶ月間の食事について

	速い	ふつう・遅い	有効回答
1. 人と比較して食べる速度が速いほうですか	291 (13.2%)	1,913 (86.8%)	2,204
	はい	いいえ	有効回答
2. 朝食を抜くことがよくありますか	144 (6.5%)	2,065 (93.5%)	2,209
3. 砂糖入りの飲料をほぼ毎日飲みますか	565 (25.6%)	1,644 (74.4%)	2,209
4. 魚介類を食べる日は、週に3日以上ですか	1,083 (49.0%)	1,126 (51.0%)	2,209
5. 漬物以外の野菜・海藻・きのこ類をほぼ毎食食べますか	1,474 (66.8%)	734 (33.2%)	2,208
6. 果物をほぼ毎日食べますか	847 (38.4%)	1,360 (61.6%)	2,207
7. 大豆製品をほぼ毎日食べますか	1,243 (56.3%)	965 (43.7%)	2,208
8. 乳製品をほぼ毎日とりますか	1,906 (86.3%)	302 (13.7%)	2,208
9. 惣菜や弁当など調理された食品を、ほぼ毎日食べますか	168 (7.6%)	2,039 (92.4%)	2,207
10. ほぼ毎日外食をしていますか	12 (0.5%)	2,197 (99.5%)	2,209

8. 子どもの情緒と行動について（問 8）

- 1) 子どもの情緒と行動(子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版))は、有効回答 2,207 人のうち、16 点^{※1}以上が 279 人(12.6%)、20 点^{※2}以上が 102 人(4.6%)であった(図 3)。平均総合得点は 8.7 点であった。
 男児では有効回答 1,109 人のうち、16 点以上が 166 人(15.0%)、20 点以上が 71 人(6.4%)であり、女児では有効回答 1,098 人のうち、16 点以上が 113 人(10.3%)、20 点以上が 31 人(2.8%)であった(図 4)。平均総合得点は男児では 9.2 点、女児では 8.1 点であった。
- 2) 子どもが情緒、集中力、行動、他人との付き合いのいずれか 1 つ以上の領域において困難を抱えているかについて、「いいえ」が 1,608 人(73.2%)、「はい(ささいな困難)」が 472 人(21.5%)、「はい(明らかな困難)」が 95 人(4.3%)、「はい(深刻な困難)」が 23 人(1.0%)であった。
- 3) 2)で「はい」と回答した方のうち、子どもがその困難によって動揺したり、悩んだりしているかについて、「まったくない」が 179 人(31.1%)、「すこしだけ」が 356 人(61.9%)、「かなり」が 34 人(5.9%)、「大いに」が 6 人(1.0%)であった。

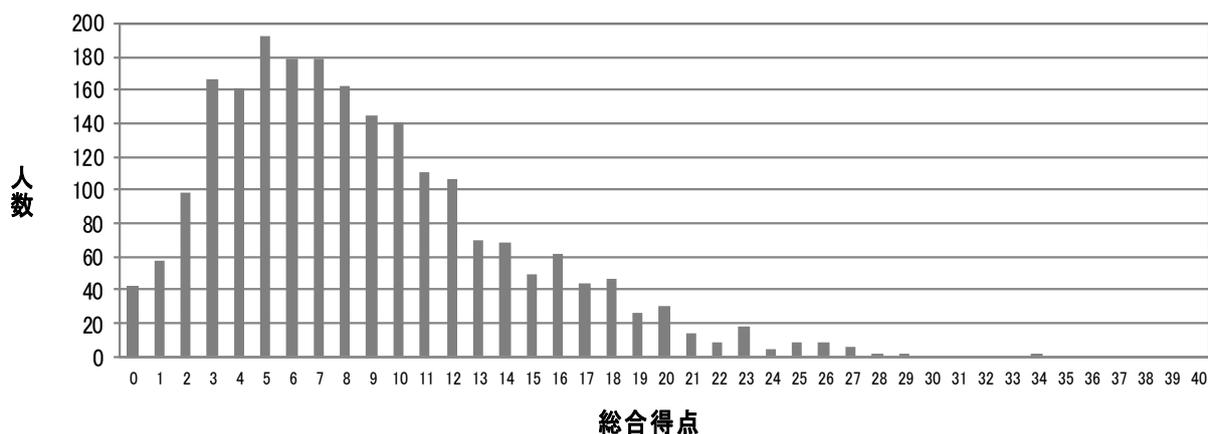


図 3 小学生の子どもの情緒と行動(SDQ): 全体

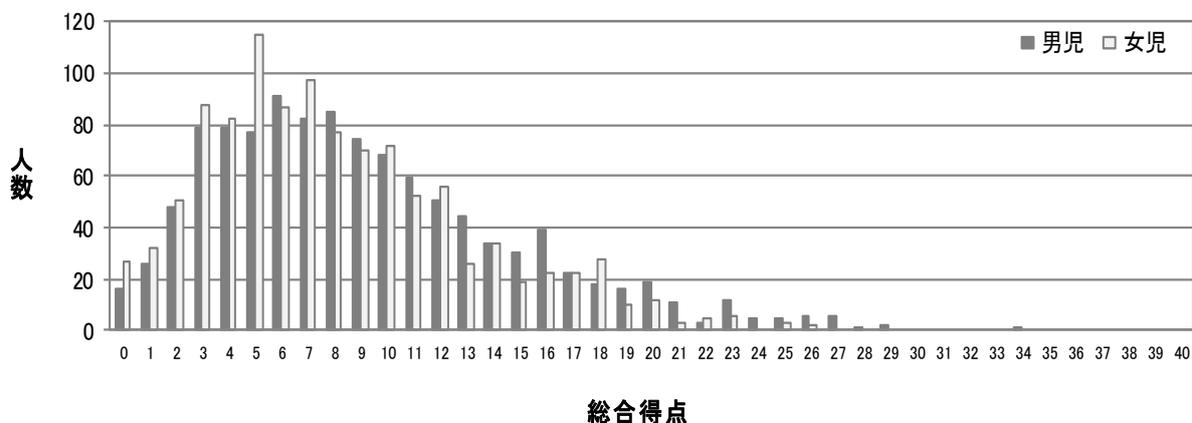


図 4 小学生の子どもの情緒と行動(SDQ): 男女別

※1 16 点: 先行研究で示されている基準

※2 20 点: 福島県立医科大学の医師等が支援を行うために設けた基準

9. 学校について（問9）

学校(学校に行きたがらないことがありますか)について、「ある」が 222 人(10.2%)、「ない」が 1,959 人(89.8%)であった。

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（中学生用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査(中学生用)の対象 5,837 人のうち、有効回答は 1,002 人(17.2%)であり、うちオンライン回答は 80 人(8.0%)であった。

性別は、男子 526 人(52.5%)、女子 476 人(47.5%)で、平均年齢は 13.9 歳であった。

調査時住所は、県内 785 人(78.3%)、県外 217 人(21.7%)であった。

1. 健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 192 人(29.7%)、「良好」が 206 人(31.9%)、「普通」が 228 人(35.3%)、「悪い」が 19 人(2.9%)、「きわめて悪い」が 1 人(0.2%)であった。

2. 現在の身長と体重について（問 2）

男子の身長・体重の平均は、1 年生 158.8cm・48.8kg、2 年生 164.5cm・54.0kg、3 年生 167.9cm・58.3kg であった。女子の身長・体重の平均は、1 年生 154.6cm・46.9kg、2 年生 156.3cm・49.8kg、3 年生 156.5cm・52.0kg であった。

3. 睡眠について（問 3）

1) 睡眠時間は、平均で 7 時間 6 分であった。

2) 睡眠満足度は、「十分だと思う」が 310 人(47.8%)、「やや足りない」が 275 人(42.4%)、「足りない」が 64 人(9.9%)であった。

4. 普段の運動量について（問 4）

運動(普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか)は、「ほとんど毎日している」が 292 人(44.8%)、「週に 2~4 回している」が 110 人(16.9%)、「週 1 回程度している」が 49 人(7.5%)、「ほとんどしていない」が 201 人(30.8%)であった。

5. 食生活について（問 5）

最近 1 ヶ月間の食事については、表 11(次頁)のとおりであった。

表 11 最近 1 ヶ月間の食事について

	速い	ふつう・遅い	有効回答
1. 人と比較して食べる速度が速いほうですか	152 (23.3%)	499 (76.7%)	651
	はい	いいえ	有効回答
2. 朝食を抜くことがよくありますか	86 (13.2%)	564 (86.8%)	650
3. 夕食後 1～2 時間以内に床につきますか	62 (9.5%)	589 (90.5%)	651
4. 砂糖入りの飲料をほぼ毎日飲みますか	210 (32.2%)	442 (67.8%)	652
5. 魚介類を食べる日は、週に 3 日以上ですか	286 (43.9%)	366 (56.1%)	652
6. 漬物以外の野菜・海藻・きのこ類をほぼ毎食食べますか	455 (69.8%)	197 (30.2%)	652
7. 果物をほぼ毎日食べますか	201 (30.9%)	450 (69.1%)	651
8. 大豆製品をほぼ毎日食べますか	349 (53.6%)	302 (46.4%)	651
9. 乳製品をほぼ毎日とりますか	539 (82.8%)	112 (17.2%)	651
10. 惣菜や弁当など調理された食品を、ほぼ毎日食べますか	93 (14.3%)	557 (85.7%)	650
11. ほぼ毎日外食をしていますか	3 (0.5%)	647 (99.5%)	650

6. 治療中の病気等について (問 6)

治療中の病気等は、「ない」が 616 人(67.4%)、「ある」が 298 人(32.6%)であった。
「ある」と回答した方の内訳(複数回答)は、表 12 のとおりであった。

7. 1 年以内の入院の経験について (問 7)

この 1 年以内の入院の経験は、「ない」が 885 人(97.0%)、「ある」が 27 人(3.0%)であった。
「ある」と回答した方の内訳(複数回答)は、表 13 のとおりであった。

表 12 治療中の病気等の内訳

病名	人数
アレルギー性鼻炎	125
歯科疾患	71
アトピー性皮膚炎	43
喘息	24
喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎以外のアレルギー性疾患	23
ADHD	14
副鼻腔炎・蓄膿症	11
風邪	8
インフルエンザ	7
てんかん	6
中耳炎	1
その他	67

(複数回答)

表 13 この 1 年以内の入院時の病気の内訳

病名	人数
風邪	14
インフルエンザ	11
胃腸炎	3
肺炎	1
気管支炎	1
喘息	0
マイコプラズマ肺炎	0
RSウイルス感染症	0
ロタウイルス感染症	0
熱性けいれん	0
川崎病	0
鼠径ヘルニア	0
その他	7

(複数回答)

8. 子どもの情緒と行動について（問 8）

- 1) 子どもの情緒と行動(子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版))は、有効回答 915 人のうち、16 点^{※1}以上が 113 人(12.3%)、20 点^{※2}以上が 45 人(4.9%)であった(図 5)。平均総合得点は 8.2 点であった。
男子では有効回答 483 人のうち、16 点以上が 66 人(13.7%)、20 点以上が 29 人(6.0%)であり、女子では有効回答 432 人のうち、16 点以上が 47 人(10.9%)、20 点以上が 16 人(3.7%)であった(図 6)。平均総合得点は男子では 8.5 点、女子では 7.9 点であった。
- 2) 子どもが情緒、集中力、行動、他人との付き合いのいずれか 1 つ以上の領域において困難を抱えているかについて、「いいえ」が 634 人(69.7%)、「はい(ささいな困難)」が 191 人(21.0%)、「はい(明らかな困難)」が 60 人(6.6%)、「はい(深刻な困難)」が 24 人(2.6%)であった。
- 3) 2)で「はい」と回答した方のうち、子どもがその困難によって動揺したり、悩んだりしているかについて、「まったくない」が 47 人(17.6%)、「すこしだけ」が 164 人(61.4%)、「かなり」が 37 人(13.9%)、「大いに」が 19 人(7.1%)であった。

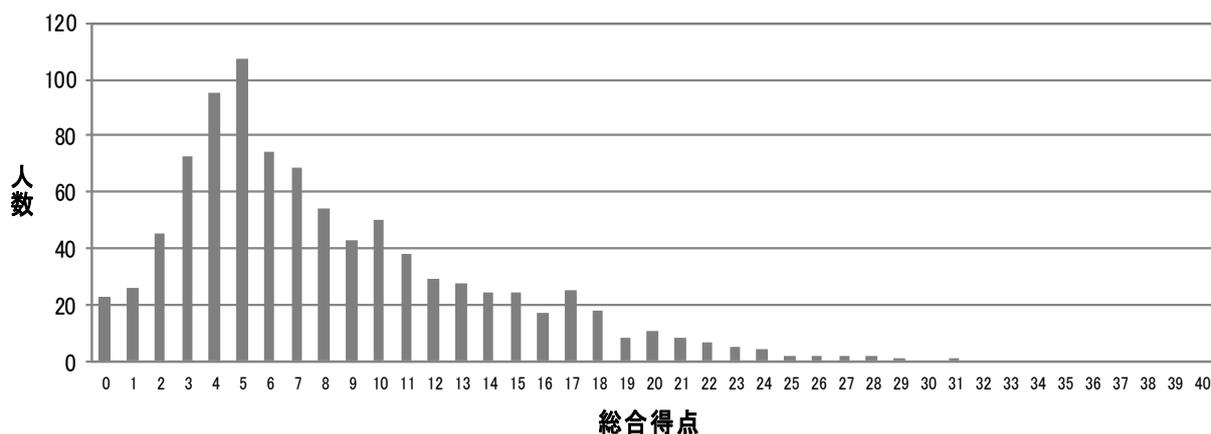


図 5 中学生の子どもの情緒と行動(SDQ): 全体

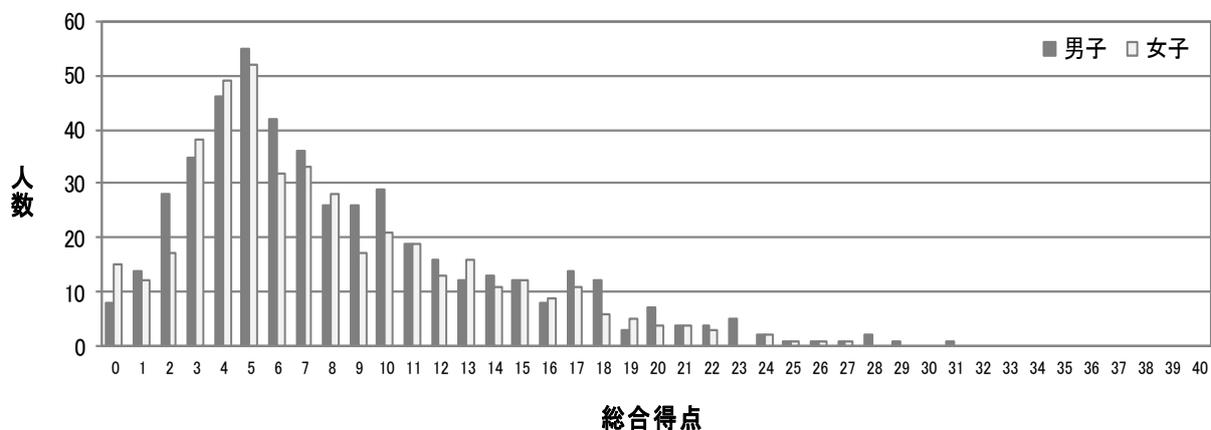


図 6 中学生の子どもの情緒と行動(SDQ): 男女別

※1 16 点: 先行研究で示されている基準

※2 20 点: 福島県立医科大学の医師等が支援を行うために設けた基準

9. 学校について（問9）

学校（学校に行きたがらないことがありますか）について、「ある」が126人（14.1%）、「ない」が769人（85.9%）であった。

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）の対象 183,866 人のうち、有効回答は 37,466 人（20.4%）であり、うちオンライン回答は 1,566 人（4.2%）であった。

性別は、男性 16,987 人（45.3%）、女性 20,479 人（54.7%）で、平均年齢は 61.9 歳であった。

調査時住所は、県内 32,063 人（85.6%）、県外 5,403 人（14.4%）であった。

1. 健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 1,346 人（4.2%）、「良好」が 5,385 人（16.7%）、「普通」が 19,961 人（62.0%）、「悪い」が 4,979 人（15.5%）、「きわめて悪い」が 505 人（1.6%）であった。

2. 身長と体重について（問 2）

1) 男性の身長・体重の平均は、165.8cm・66.4kg であり、BMI の平均は、24.1 kg/m² であった。

男性の BMI 18.5 kg/m² 未満は 580 人（3.6%）、18.5 kg/m² 以上 25.0 kg/m² 未満は 9,835 人（60.3%）、25.0 kg/m² 以上 27.5 kg/m² 未満は 3,506 人（21.5%）、27.5 kg/m² 以上 30.0 kg/m² 未満は 1,495 人（9.2%）、30.0 kg/m² 以上は 901 人（5.5%）であった。

女性の身長・体重の平均は、153.1cm・54.2kg であり、BMI の平均は、23.2 kg/m² であった。

女性の BMI 18.5 kg/m² 未満は 1,464 人（7.6%）、18.5 kg/m² 以上 25.0 kg/m² 未満は 12,529 人（65.2%）、25.0 kg/m² 以上 27.5 kg/m² 未満は 2,894 人（15.1%）、27.5 kg/m² 以上 30.0 kg/m² 未満は 1,324 人（6.9%）、30.0 kg/m² 以上は 1,016 人（5.3%）であった。

2) 体重変化（1 年前と比べて体重に変化はありましたか）は、「3kg 以上増えた」が 4,365 人（12.4%）、「ほぼ変わらない（±3kg 以内）」が 28,034 人（79.3%）、「3kg 以上減った」が 2,931 人（8.3%）であった。

男性の体重変化は、「3kg 以上増えた」が 1,834 人（11.4%）、「ほぼ変わらない（±3kg 以内）」が 12,885 人（80.0%）、「3kg 以上減った」が 1,387 人（8.6%）であった。

女性の体重変化は、「3kg 以上増えた」が 2,531 人（13.2%）、「ほぼ変わらない（±3kg 以内）」が 15,149 人（78.8%）、「3kg 以上減った」が 1,544 人（8.0%）であった。

3. 既往歴について（問3）

既往歴（今までに、次のような病気にかかっていると医師に診断されたことがありますか）は、表 14 のとおりであった。

表 14 一般の傷病別の診断経験および通院状況（上段人数／下段割合）

傷病名	有効回答数	診断された経験		現在の通院状況 ^(※1)	
		ない	ある	はい	いいえ
高血圧 (または、血圧が高い)	36,442	20,333 (55.8%)	16,109 (44.2%)	14,523 (92.1%)	1,251 (7.9%)
糖尿病 (または、血糖が高い)	35,736	30,199 (84.5%)	5,537 (15.5%)	4,810 (89.7%)	551 (10.3%)
脂質異常症	35,728	22,497 (63.0%)	13,231 (37.0%)	9,050 (70.9%)	3,711 (29.1%)
精神疾患	35,933	32,294 (89.9%)	3,639 (10.1%)	2,714 (77.2%)	801 ^(※2) (22.8%)
がん (白血病やリンパ腫を含む)	36,139	33,676 (93.2%)	2,463 (6.8%)		
脳卒中	36,290	34,508 (95.1%)	1,782 (4.9%)		
(脳卒中の種類) 複数回答					
脳こうそく			1,239		
脳出血			219		
くも膜下出血			188		
その他			13		
わからない			155		
心臓病	36,367	31,592 (86.9%)	4,775 (13.1%)		
(心臓病の種類) 複数回答					
心筋梗塞			558		
狭心症			1,285		
不整脈			2,474		
その他			725		
わからない			319		
肺炎 (この 10 年くらいの間で)	36,518	35,271 (96.6%)	1,247 (3.4%)		
50 歳以後の骨折 (調査票記入時点で 50 歳以上の回答を集計)	27,647	24,339 (88.0%)	3,308 (12.0%)		
甲状腺疾患	36,310	34,898 (96.1%)	1,412 (3.9%)		
(甲状腺疾患種類) 複数回答					
甲状腺機能亢進症(バセドウ病)			324		
甲状腺機能低下症			516		
その他			530		

(※1)「現在の通院状況」はその有効回答数の割合とした

(※2)うち、419 人は、「現在は改善しているため、通院はしていない」

4. 睡眠について（問4）

- 1) 睡眠時間は、平均で7時間2分であった。
- 2) 睡眠満足度は、「満足している」が12,703人(39.3%)、「少し不満」が14,902人(46.1%)、「かなり不満」が3,871人(12.0%)、「非常に不満か、全く眠れなかった」が844人(2.6%)であった。
- 3) 睡眠に関する経験(以下の経験が少なくとも週3回以上ありましたか)は、表15のとおりであった。

表15 一般の睡眠に関する経験(人数(割合))

	ある	ない	有効回答数
1. 夜、床に入ってから寝つくまでの時間がかかる	12,806 (40.1%)	19,122 (59.9%)	31,928
2. 夜間、睡眠途中で目が覚める	20,671 (64.5%)	11,393 (35.5%)	32,064
3. 希望する起床時刻より早く目覚め、それ以上眠れない	12,546 (39.9%)	18,895 (60.1%)	31,441
4. 総睡眠時間が不足する	11,167 (36.1%)	19,784 (63.9%)	30,951
5. 日中の気分がめいる	7,653 (24.9%)	23,094 (75.1%)	30,747
6. 日中の身体的および精神的な活動が低下する	8,891 (28.6%)	22,143 (71.4%)	31,034
7. 日中の眠気	15,284 (48.6%)	16,183 (51.4%)	31,467

5. 運動について（問5）

運動は、「ほとんど毎日している」が5,818人(15.9%)、「週に2~4回している」が9,112人(24.9%)、「週1回程度している」が6,241人(17.0%)、「ほとんどしていない」が15,486人(42.2%)であった。

6. 喫煙について（問6）

喫煙(タバコ(紙巻きタバコ)を吸いますか。葉巻やパイプは除きます。)は、「吸ったことがない」が20,199人(57.6%)、「やめた」が9,447人(27.0%)、「吸っている」が5,399人(15.4%)であった。「吸っている」と回答した方のうち、平均喫煙年数は31.6年、平均1日本数は16.1本であった。

7. 飲酒について（問7）

- 1) 飲酒(現在、お酒(アルコール飲料)を飲みますか)は、「飲まない、または、ほとんど飲まない(月に1回未満)」が19,087人(54.2%)、「やめた」が1,675人(4.8%)、「飲む(月に1回以上)」が14,458人(41.1%)であった。
- 2) 「飲む(月に1回以上)」と回答した方のうち、お酒を飲む頻度は、1日が2,004人(14.4%)、2日が1,462人(10.5%)、3日が1,362人(9.8%)、4日が816人(5.9%)、5日が1,442人(10.4%)、6日が1,749人(12.6%)、7日が5,037人(36.3%)であった。
- 3) 1日あたりの平均飲酒量は、日本酒換算で約1.1合であった。飲酒(問7の1))の有効回答者35,220人のうち2,874人(8.2%)が多量飲酒者(日本酒2合以上)であった。

4) 飲酒に関する経験(過去30日間を振り返って、次のことについてお尋ねします(CAGE:アルコール依存症に関する尺度))の各項目への回答状況は、表16のとおりであった。「はい」という回答を1点とし、4項目の合計点を算出した。

年代別の結果は、表17のとおりで、全体では0点が8,171人(62.9%)、1点が2,924人(22.5%)、2点が1,152人(8.9%)、3点が546人(4.2%)、4点が192人(1.5%)であった。

男性では、0点が5,058人(57.1%)、1点が2,288人(25.8%)、2点が910人(10.3%)、3点が442人(5.0%)、4点が159人(1.8%)であり、女性では、0点が3,113人(75.4%)、1点が636人(15.4%)、2点が242人(5.9%)、3点が104人(2.5%)、4点が33人(0.8%)であった。

表16 飲酒に関する経験(上段人数/下段割合)

		いいえ	はい	有効 回答数
1	飲酒量を減らさなければならぬと感じたことがありますか?	9,172 (69.6%)	4,004 (30.4%)	13,176
2	他人があなたの飲酒を批難するので気にさわったことがありますか?	11,848 (90.8%)	1,194 (9.2%)	13,042
3	自分の飲酒について悪いとか申し訳ないと感じたことがありますか?	11,434 (87.6%)	1,621 (12.4%)	13,055
4	神経を落ち着かせたり、二日酔いを治すために、「迎え酒」をしたことがありますか?	12,093 (92.5%)	975 (7.5%)	13,068

※回答数が異なるため、合計が一致しない場合がある。

表17 年代別の飲酒に関する経験(上段人数/下段割合)

	0点	1点	2点	3点	4点	有効 回答数
20代	468 (77.0%)	89 (14.6%)	30 (4.9%)	16 (2.6%)	5 (0.8%)	608
30代	680 (67.9%)	189 (18.9%)	83 (8.3%)	37 (3.7%)	12 (1.2%)	1,001
40代	916 (62.3%)	319 (21.7%)	143 (9.7%)	67 (4.6%)	26 (1.8%)	1,471
50代	1,184 (58.8%)	521 (25.9%)	186 (9.2%)	88 (4.4%)	36 (1.8%)	2,015
60代	2,561 (61.3%)	982 (23.5%)	389 (9.3%)	184 (4.4%)	63 (1.5%)	4,179
70代以上	2,362 (63.6%)	824 (22.2%)	321 (8.6%)	154 (4.1%)	50 (1.3%)	3,711
全体	8,171 (62.9%)	2,924 (22.5%)	1,152 (8.9%)	546 (4.2%)	192 (1.5%)	12,985

8. 食欲について（問8）

食欲（この2週間で、食欲がないことがどのくらいの頻度でありましたか）は、「0日」が27,879人（77.7%）、「数日」が6,262人（17.5%）、「半分以上」が990人（2.8%）、「ほとんど毎日」が735人（2.0%）であった。

9. 食生活について（問9）

最近1ヶ月間の食事については、表18のとおりであった。

表18 最近1ヶ月間の食事について

	速い	ふつう・遅い	有効回答
1. 人と比較して食べる速度が速いほうですか	10,099 (27.3%)	26,828 (72.7%)	36,927
	はい	いいえ	有効回答
2. 朝食を抜くことがよくありますか	5,561 (15.1%)	31,282 (84.9%)	36,843
3. 間食または夜食をほぼ毎日とりますか	10,171 (27.7%)	26,500 (72.3%)	36,671
4. 就寝前の2時間以内に夕食を週3回以上とりますか	7,669 (20.9%)	28,951 (79.1%)	36,620
5. 惣菜や弁当など調理された食品を、ほぼ毎日食べますか	8,875 (24.1%)	27,917 (75.9%)	36,792

10. 全般的な精神健康状態について（問 10）

1) 全般的な精神健康状態 (K6) は、有効回答 31,637 人のうち、13 点^{※3}以上が 2,160 人 (6.8%) であった (図 7)。平均点は 4.4 点であった。

男性では有効回答 14,448 人のうち、13 点以上が 928 人 (6.4%) であり、女性では有効回答 17,189 人のうち、13 点以上が 1,232 人 (7.2%) であった (図 8)。男性の平均点は 4.1 点、女性の平均点は 4.6 点であった。

年齢階級別は、表 19 (次頁) のとおりである。

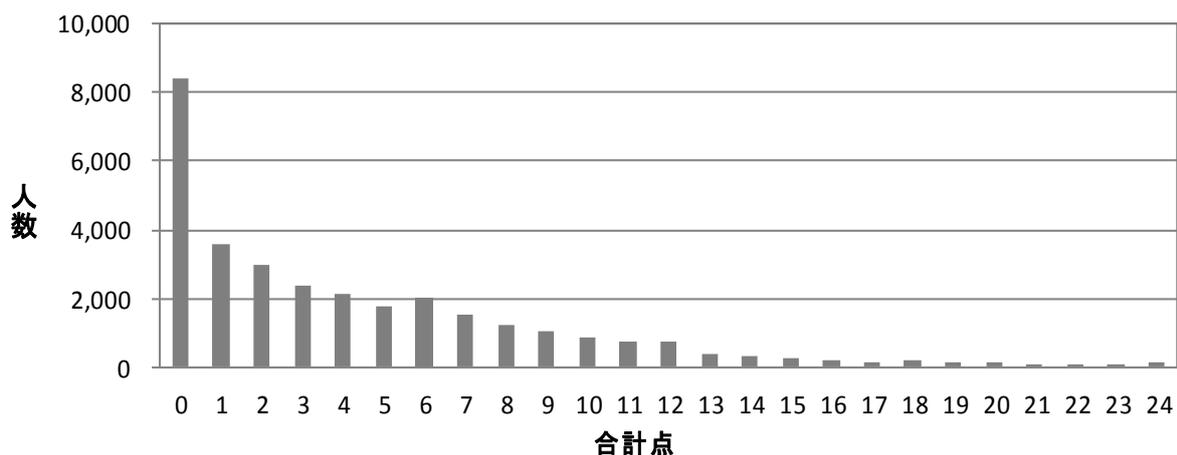


図 7 全般的な精神健康状態 (K6) : 全体

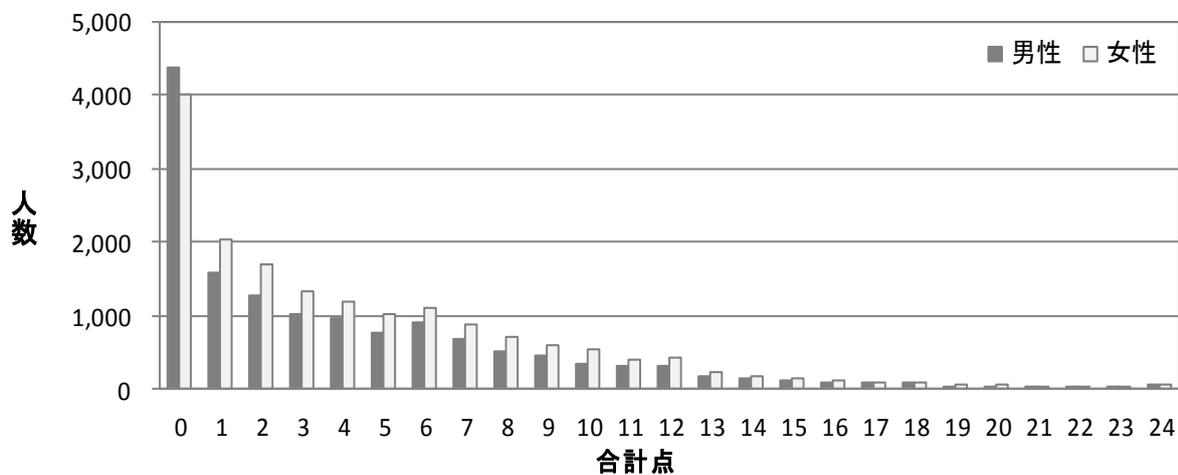


図 8 全般的な精神健康状態 (K6) : 男女別

表 19 全般的な精神健康状態(K6):年齢階級別 (人数(割合))

	13 点以上	有効回答数
10 代	47 (8.2%)	571
20 代	133 (8.8%)	1,509
30 代	222 (8.4%)	2,633
40 代	259 (8.3%)	3,126
50 代	330 (8.3%)	3,984
60 代	437 (4.9%)	8,888
70 代以上	732 (6.7%)	10,926

※3 13 点:先行研究で示されている基準

- 2) こうした経験・不調が原因で、日常生活に支障があったかどうかは、「全くない」が 21,270 人 (65.4%)、「少しだけ」が 7,134 人 (21.9%)、「ときどき」が 2,790 人 (8.6%)、「たいてい」が 670 人 (2.1%)、「いつも」が 638 人 (2.0%)であった。

11. 東日本大震災の体験およびトラウマ反応について（問 11）

- 1) 東日本大震災にて経験したこと(複数回答)は、「地震」が 32,117 人、「津波」が 6,430 人、「原子力発電所事故」が 30,833 人、「いずれもなし」が 608 人であった。
- 2) トラウマ反応(PCL-4)は、有効回答 30,263 人のうち、12 点^{*4}以上が 3,001 人(9.9%)であった(図 9)。平均点は 6.8 点であった。

男性では有効回答 13,831 人のうち、12 点以上が 1,246 人(9.0%)であり、女性では有効回答 16,432 人のうち、12 点以上が 1,755 人(10.7%)であった(図 10)。男性の平均点は 6.7 点、女性の平均点は 6.9 点であった。

年齢階級別は、表 20(次頁)のとおりである。

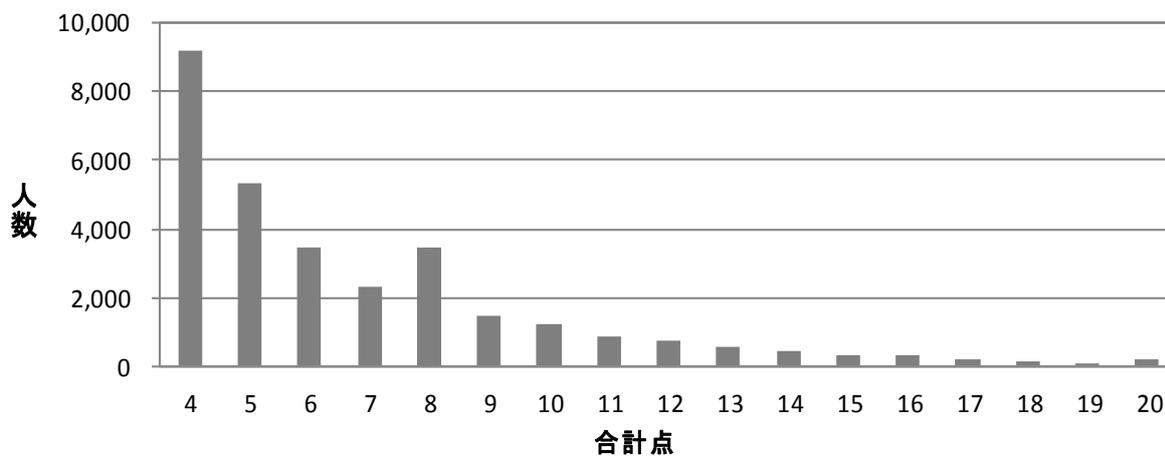


図 9 一般のトラウマ反応(PCL-4): 全体

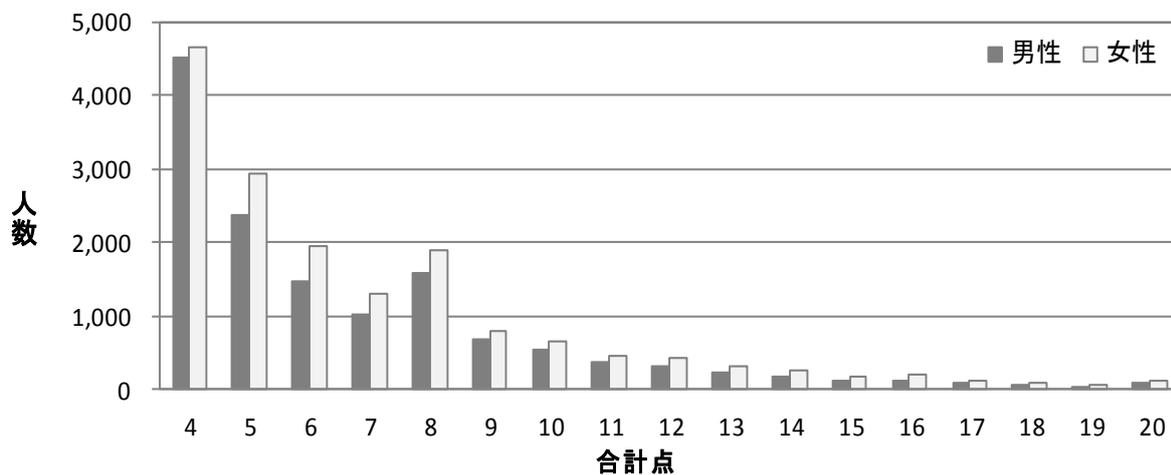


図 10 一般のトラウマ反応(PCL-4): 男女別

表 20 一般のトラウマ反応(PCL-4):年齢階級別 (人数(割合))

	12 点以上	有効回答数
10 代	17 (3.0%)	561
20 代	74 (5.1%)	1,465
30 代	133 (5.2%)	2,562
40 代	217 (7.1%)	3,069
50 代	295 (7.6%)	3,885
60 代	685 (8.0%)	8,554
70 代以上	1,580 (15.5%)	10,167

※4 12 点:先行研究で示されている基準

12. (現在の)生活状況について(問12)

- 1) 震災のため、もともと同居していた家族と、離れて生活しているかどうかについては、「はい」が11,464人(31.7%)、「いいえ」が24,741人(68.3%)であった。
- 2) 同居の人数(自分を含めて)は、震災前が、「1人(ひとり暮らし)」が2,807人(8.1%)、「2人」が8,511人(24.5%)、「3人」が6,890人(19.8%)、「4人」が5,790人(16.6%)、「5人」が4,155人(11.9%)、「6人」が3,377人(9.7%)、「7人」が2,051人(5.9%)、「8人」が811人(2.3%)、「9人」が244人(0.7%)、「10人以上」が141人(0.4%)であった。現在は、「1人(ひとり暮らし)」が5,351人(15.0%)、「2人」が13,064人(36.6%)、「3人」が6,897人(19.3%)、「4人」が4,767人(13.4%)、「5人」が2,590人(7.3%)、「6人」が1,697人(4.8%)、「7人」が913人(2.6%)、「8人」が294人(0.8%)、「9人」が87人(0.2%)、「10人以上」が47人(0.1%)であった。
- 3) 現在の住まいについて
 - 3-1) 現在の住まい(複数回答)は、「借上住宅」が4,049人、「仮設住宅」が1,869人、「復興公営住宅」が1,608人、「借家・アパート」が3,952人、「親戚宅」が735人、「持家」が24,243人、「その他」が506人であった。
 - 3-2) 現在の避難状況(震災時の住所が避難指示区域にあり、その区域が現在、避難指示を解除された区域にある方にお尋ねします)は、「震災前の住所の家に住んでいる」が7,923人(45.0%)、「避難指示解除区域ではあるが、震災前とは違う住所の家に住んでいる」が4,506人(25.6%)、「避難指示解除区域に住んではない(時々家に行く場合も含む)」が5,192人(29.5%)であった。
- 4) 勤務形態は、「常勤・自営」が9,570人(27.2%)、「パート」が2,878人(8.2%)、「無職(学生、専業主婦を含む)」が22,742人(64.6%)であった。
- 5) 現在のくらし向きを経済的にみてどう感じているかについては、「苦しい」が3,821人(10.6%)、「やや苦しい」が8,353人(23.2%)、「普通」が21,548人(59.8%)、「ややゆとりがある」が1,672人(4.6%)、「ゆとりがある」が617人(1.7%)であった。
- 6) 震災時の子どもとの同居状況(震災時、あなた(または配偶者)は妊娠中でしたか。あるいは、未成年のあなたの子ども(孫は含まない)と同居していましたか)については、「はい」が5,013人(16.0%)、「いいえ」が26,347人(84.0%)であった。
 「はい」と回答した方のうち、「自分(または配偶者)は妊娠中であった」が456人(9.1%)、「就学前の子どもと同居していた」が2,099人(41.9%)、「小学生の子どもと同居していた」が1,829人(36.5%)、「中学生の子どもと同居していた」が890人(17.8%)、「中学卒業以上の未成年の子どもと同居していた」が1,320人(26.3%)であった(複数回答)。
- 7) 現在の子どもとの同居状況(現在、あなた(または配偶者)は妊娠中ですか。あるいは、未成年のあなたの子ども(孫は含まない)と同居していますか)については、「はい」が4,049人(13.3%)、「いいえ」が26,497人(86.7%)であった。
 「はい」と回答した方のうち、「自分(または配偶者)は妊娠中である」が276人(6.8%)、「就学前の子どもと同居している」が1,686人(41.6%)、「小学生の子どもと同居している」が1,622人(40.1%)、「中学生の子どもと同居している」が952人(23.5%)、「中学卒業以上の未成年の子どもと同居している」が1,012人(25.0%)であった(複数回答)。

13. 放射線の健康影響についての認識について（問 13）

1) 放射線の健康影響についての認識は、表 21 のとおりであった。

表 21 放射線の健康影響についての認識(上段人数/下段割合)

		可能性は 極めて 低い	←	→	可能性は 非常に 高い	有効 回答数
1	現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康障害(例えば、がんの発症など)がどのくらい起こると思いますか。	10,910 (34.8%)	10,253 (32.7%)	5,793 (18.5%)	4,388 (14.0%)	31,344
2	現在の放射線被ばくで、次世代以降の人(将来生まれてくる自分の子や孫など)への健康影響がどれくらい起こると思いますか。	9,532 (31.0%)	10,142 (32.9%)	6,424 (20.9%)	4,685 (15.2%)	30,783

2) この1ヶ月間に、放射線に対する不安が原因で、日常生活に支障をきたした頻度は、「しばしばあった」が1,504人(4.7%)、「時々あった」が4,345人(13.6%)、「まれにあった」が6,670人(20.8%)、「1度もなかった」が19,519人(60.9%)であった。

14. 相談先について（問 14）

相談先(現在、こころや身体の問題が生じた場合、相談できる身近な人や各種機関はありますか)については、「ある」が32,540人(89.1%)、「相談できる人や機関はない」が3,966人(10.9%)であった。

「ある」と回答した方の内訳は、表 22 のとおりであった。

表 22 相談先の内訳

	人数
家族・親戚	28,329
友人・知人	15,591
同僚・上司	3,237
市町村相談窓口(市保健所、保健センター等)	7,521
都道府県相談窓口(都道府県保健所・保健福祉事務所等)	1,757
精神保健福祉センター	788
ふくしま心のケアセンター	1,004
訪問看護・介護サービス機関	2,324
心療内科・精神科・神経科・メンタルクリニックなどの医療機関	4,395
上記以外の医療機関(一般の内科、外科、眼科、耳鼻科、整形外科、産婦人科など)	8,464
宗教団体(神社、寺院や教会など)	508
その他	248

(複数回答)

平成28年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（0歳～3歳用）」資料

			人数	割合
回答形式	(有効回答 798人)	・紙	734	92.0%
		・オンライン	64	8.0%
性別 (平均年齢 1.9歳)	(有効回答 798人)	・男児	404	50.6%
		・女児	394	49.4%
調査時住所別	(有効回答 798人)	・県内	722	90.5%
		・県外	76	9.5%
問1 健康状態について	(有効回答 782人)	・きわめて良好	315	40.3%
		・良好	338	43.2%
		・普通	124	15.9%
		・悪い	5	0.6%
		・きわめて悪い	0	0.0%
問2 身長と体重		(性別年齢階級別 ※本文中に掲載 P②-11)		
問3 治療中の病気等の有無	(有効回答 788人)	・ない	573	72.7%
		・ある	215	27.3%
		(内訳 ※本文中に掲載 P②-11 表2)		
問4 1年以内の入院の経験の有無	(有効回答 794人)	・ない	680	85.6%
		・ある	114	14.4%
		(内訳 ※本文中に掲載 P②-11 表3)		
問5 睡眠時間と昼寝の有無				
1) 睡眠時間	(有効回答 796人)	・平均睡眠時間 9時間53分		
	(有効回答 796人)	・平均就寝時刻 午後9時7分		
	(有効回答 796人)	・平均起床時刻 午前7時0分		
2) 昼寝の有無	(有効回答 795人)	・いいえ	81	10.2%
		・はい	714	89.8%
	(有効回答 702人)	(平均昼寝時間 1時間54分)		
問6 普段の運動量について	(有効回答 503人)	・ほとんど毎日している	274	54.5%
		・週に2～4回している	155	30.8%
		・週1回程度している	57	11.3%
		・ほとんどしていない	17	3.4%
問7 食生活				
1) 母乳による授乳	(有効回答 794人)	・はい	120	15.1%
		・いいえ	674	84.9%
2) 最近1ヶ月間の食事について		・本文中に掲載 P②-12 表4		
問8 育児に自信がもてない	(有効回答 796人)	・はい	87	10.9%
		・いいえ	368	46.2%
		・何ともいえない	341	42.8%

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（4 歳～6 歳用）」資料

			人数	割合
回答形式	(有効回答 889人)	・紙	833	93.7%
		・オンライン	56	6.3%
性別	(有効回答 889人)	・男児	432	48.6%
(平均年齢 5.1歳)		・女児	457	51.4%
調査時住所別	(有効回答 889人)	・県内	710	79.9%
		・県外	179	20.1%
問1 健康状態について	(有効回答 848人)	・きわめて良好	288	34.0%
		・良好	322	38.0%
		・普通	234	27.6%
		・悪い	4	0.5%
		・きわめて悪い	0	0.0%
問2 身長と体重		(性別年齢階級別 ※本文中に掲載 P②-13)		
問3 治療中の病気等の有無	(有効回答 882人)	・ない	548	62.1%
		・ある	334	37.9%
		(内訳 ※本文中に掲載 P②-13 表5)		
問4 1年以内の入院の経験の有無	(有効回答 883人)	・ない	789	89.4%
		・ある	94	10.6%
		(内訳 ※本文中に掲載 P②-13 表6)		
問5 睡眠時間と昼寝の有無				
1) 睡眠時間	(有効回答 886人)	・平均睡眠時間	9時間37分	
	(有効回答 887人)	・平均就寝時刻	午後 9時11分	
	(有効回答 886人)	・平均起床時刻	午前 6時49分	
2) 昼寝の有無	(有効回答 885人)	・いいえ	561	63.4%
		・はい	324	36.6%
	(有効回答 296人)	(平均昼寝時間	1時間33分)	
問6 普段の運動量について	(有効回答 887人)	・ほとんど毎日している	512	57.7%
		・週に2～4回している	263	29.7%
		・週1回程度している	81	9.1%
		・ほとんどしていない	31	3.5%
問7 最近1ヶ月間の食事について		・本文中に掲載 P②-14 表7		
問8 子どもの情緒と行動について(SDQ)				
1) SDQ	(有効回答 888人)	・平均総合得点	9.1点	
	(有効回答 432人)	・平均総合得点 男児	9.7点	
	(有効回答 456人)	・平均総合得点 女児	8.5点	
		・16点以上	99	11.1%
		(男児)	56	13.0%
		(女児)	43	9.4%
		・20点以上	35	3.9%
		(男児)	20	4.6%
		(女児)	15	3.3%
2) 困難の有無および程度	(有効回答 887人)	・いいえ	678	76.4%
		・はい(ささいな困難)	174	19.6%
		・はい(明らかな困難)	29	3.3%
		・はい(深刻な困難)	6	0.7%
3) 困難による動揺の程度	(有効回答 206人)	・まったくない	103	50.0%
		・すこしだけ	91	44.2%
		・かなり	10	4.9%
		・大いに	2	1.0%
問9 保育園・幼稚園に行きたがらない	(有効回答 886人)	・ある	136	15.3%
		・ない	719	81.2%
		・現在入園していない	31	3.5%

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（小学生用）」資料

		人数	割合
回答形式	(有効回答 2,209人)	・紙 ・オンライン	2,062 93.3% 147 6.7%
性別 (平均年齢 9.3歳)	(有効回答 2,209人)	・男児 ・女児	1,110 50.2% 1,099 49.8%
調査時住所別	(有効回答 2,209人)	・県内 ・県外	1,682 76.1% 527 23.9%
問1 健康状態について	(有効回答 2,037人)	・きわめて良好 ・良好 ・普通 ・悪い ・きわめて悪い	546 26.8% 854 41.9% 615 30.2% 22 1.1% 0 0.0%
問2 身長と体重	(性別年齢階級別 ※本文中に掲載 P②-17)		
問3 治療中の病気等の有無	(有効回答 2,195人)	・ない ・ある (内訳 ※本文中に掲載 P②-17 表8)	1,389 63.3% 806 36.7%
問4 1年以内の入院の経験の有無	(有効回答 2,205人)	・ない ・ある (内訳 ※本文中に掲載 P②-17 表9)	2,046 92.8% 159 7.2%
問5 睡眠時間	(有効回答 2,196人) (有効回答 2,200人) (有効回答 2,196人)	・平均睡眠時間 8時間52分 ・平均就寝時刻 午後 9時32分 ・平均起床時刻 午前 6時24分	
問6 普段の運動量について	(有効回答 2,204人)	・ほとんど毎日している ・週に2~4回している ・週1回程度している ・ほとんどしていない	187 8.5% 690 31.3% 603 27.4% 724 32.8%
問7 最近1ヶ月間の食事について	・本文中に掲載 P②-18 表10		
問8 子どもの情緒と行動について(SDQ)			
1) SDQ	(有効回答 2,207人) (有効回答 1,109人) (有効回答 1,098人)	・平均総合得点 8.7点 ・平均総合得点 男児 9.2点 ・平均総合得点 女児 8.1点	
		・16点以上 (男児) (女児) ・20点以上 (男児) (女児)	279 12.6% 166 15.0% 113 10.3% 102 4.6% 71 6.4% 31 2.8%
2) 困難の有無および程度	(有効回答 2,198人)	・いいえ ・はい(ささいな困難) ・はい(明らかな困難) ・はい(深刻な困難)	1,608 73.2% 472 21.5% 95 4.3% 23 1.0%
3) 困難による動揺の程度	(有効回答 575人)	・まったくない ・すこしだけ ・かなり ・大いに	179 31.1% 356 61.9% 34 5.9% 6 1.0%
問9 学校に行きたがらない	(有効回答 2,181人)	・ある ・ない	222 10.2% 1,959 89.8%

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（中学生用）」資料

		人数	割合
回答形式	(有効回答 1,002人)	・紙 ・オンライン	922 92.0% 80 8.0%
性別	(有効回答 1,002人)	・男子 ・女子	526 52.5% 476 47.5%
(平均年齢 13.9歳)			
調査時住所別	(有効回答 1,002人)	・県内 ・県外	785 78.3% 217 21.7%
問1 健康状態について	(有効回答 646人)	・きわめて良好 ・良好 ・普通 ・悪い ・きわめて悪い	192 29.7% 206 31.9% 228 35.3% 19 2.9% 1 0.2%
問2 身長と体重	(性別年齢階級別 ※本文中に掲載 P②-21)		
問3 睡眠			
1) 睡眠時間	(有効回答 650人)	・平均睡眠時間 7時間 6分	
2) 睡眠(最近)1ヶ月の満足度	(有効回答 649人)	・十分だと思う ・やや足りない ・足りない	310 47.8% 275 42.4% 64 9.9%
問4 普段の運動量について	(有効回答 652人)	・ほとんど毎日している ・週に2~4回している ・週1回程度している ・ほとんどしていない	292 44.8% 110 16.9% 49 7.5% 201 30.8%
問5 最近1ヶ月間の食事について	・本文中に掲載 P②-22 表11		
問6 治療中の病気等の有無	(有効回答 914人)	・ない ・ある	616 67.4% 298 32.6%
(内訳 ※本文中に掲載 P②-22 表12)			
問7 1年以内の入院の経験の有無	(有効回答 912人)	・ない ・ある	885 97.0% 27 3.0%
(内訳 ※本文中に掲載 P②-22 表13)			
問8 子どもの情緒と行動について(SDQ)			
1) SDQ	(有効回答 915人)	・平均総合得点 8.2点	
	(有効回答 483人)	・平均総合得点 男子 8.5点	
	(有効回答 432人)	・平均総合得点 女子 7.9点	
		・16点以上	113 12.3%
		(男子)	66 13.7%
		(女子)	47 10.9%
		・20点以上	45 4.9%
		(男子)	29 6.0%
		(女子)	16 3.7%
2) 困難の有無および程度	(有効回答 909人)	・いいえ ・はい(ささいな困難) ・はい(明らかな困難) ・はい(深刻な困難)	634 69.7% 191 21.0% 60 6.6% 24 2.6%
3) 困難による動揺の程度	(有効回答 267人)	・まったくない ・すこしだけ ・かなり ・大いに	47 17.6% 164 61.4% 37 13.9% 19 7.1%
問9 学校に行きたがらない	(有効回答 895人)	・ある ・ない	126 14.1% 769 85.9%

平成28年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）」資料

			人数	割合
回答形式	(有効回答 37,466人)	・紙	35,900	95.8%
		・オンライン	1,566	4.2%
性別	(有効回答 37,466人)	・男性	16,987	45.3%
(平均年齢 61.9歳)		・女性	20,479	54.7%
調査時住所別	(有効回答 37,466人)	・県内	32,063	85.6%
		・県外	5,403	14.4%
問1 健康状態について	(有効回答 32,176人)	・きわめて良好	1,346	4.2%
		・良好	5,385	16.7%
		・普通	19,961	62.0%
		・悪い	4,979	15.5%
		・きわめて悪い	505	1.6%
問2 身長と体重		・本文中に掲載 P②-25		
問3 既往歴		・本文中に掲載 P②-26 表14		
問4 睡眠				
1) 睡眠時間	(有効回答 36,504人)	・平均睡眠時間 7時間 2分		
2) 睡眠満足度	(有効回答 32,320人)	・満足している	12,703	39.3%
		・少し不満	14,902	46.1%
		・かなり不満	3,871	12.0%
		・非常に不満か、全く眠れなかった	844	2.6%
3) 睡眠に関する経験		・本文中に掲載 P②-27 表15		
問5 普段の運動量について	(有効回答 36,657人)	・ほとんど毎日している	5,818	15.9%
		・週に2～4回している	9,112	24.9%
		・週1回程度している	6,241	17.0%
		・ほとんどしていない	15,486	42.2%
問6 喫煙	(有効回答 35,045人)	・吸ったことがない	20,199	57.6%
		・やめた	9,447	27.0%
		・吸っている	5,399	15.4%
		(平均喫煙年数 31.6年)		
		(平均1日本数 16.1本)		
問7 飲酒				
1) アルコール飲料の飲酒	(有効回答 35,220人)	・飲まない、または、ほとんど飲まない	19,087	54.2%
		・やめた	1,675	4.8%
		・飲む(月1回以上)	14,458	41.1%
2) 飲酒の頻度	(有効回答 13,872人)	・本文中に掲載 P②-27		
3) 1日あたりの飲酒量	(有効回答 13,465人)	・平均飲酒量 1.1合		
4) 飲酒に関する経験	(有効回答 12,985人)	・本文中に掲載 P②-28 表16・表17		
問8 食欲について	(有効回答 35,866人)	・0日	27,879	77.7%
		・数日	6,262	17.5%
		・半分以上	990	2.8%
		・ほとんど毎日	735	2.0%
問9 最近1ヶ月間の食事について		・本文中に掲載 P②-29 表18		
問10 全般的な精神健康状態について				
1) 精神健康状態(K6)	(有効回答 31,637人)	・平均点 4.4点		
	(有効回答 14,448人)	・平均点 男性 4.1点		
	(有効回答 17,189人)	・平均点 女性 4.6点		
		・13点以上	2,160	6.8%
		(男性)	928	6.4%
		(女性)	1,232	7.2%
		(年齢階級別 ※本文中に掲載 P②-31 表19)		
2) 日常生活への支障	(有効回答 32,502人)	・全くない	21,270	65.4%
		・少しだけ	7,134	21.9%
		・ときどき	2,790	8.6%
		・たいてい	670	2.1%
		・いつも	638	2.0%

		人数	割合	
問11 東日本大震災の体験およびトラウマ反応について				
1) 震災での経験	※複数回答	・地震 ・津波 ・原子力発電所事故 ・いずれもなし	32,117 6,430 30,833 608	— — — —
2) トラウマ反応(PCL-4)	(有効回答 30,263人) (有効回答 13,831人) (有効回答 16,432人)	・平均点 6.8点 ・平均点 男性 6.7点 ・平均点 女性 6.9点 ・12点以上 (男性) (女性) (年齢階級別 ※本文中に掲載 P②-33 表20)	3,001 1,246 1,755	9.9% 9.0% 10.7%
問12 現在の生活状況について				
1) 家族との生活状況	(有効回答 36,205人)	・はい ・いいえ	11,464 24,741	31.7% 68.3%
2) 同居人数 震災前	(有効回答 34,777人)	・1人(ひとり暮らし) ・2人 ・3人以上 ※詳細は本文中に掲載 P②-34	2,807 8,511 23,459	8.1% 24.5% 67.5%
現在	(有効回答 35,707人)	・1人(ひとり暮らし) ・2人 ・3人以上 ※詳細は本文中に掲載 P②-34	5,351 13,064 17,292	15.0% 36.6% 48.4%
3) 現在の住まいについて				
3-1) 現在の住まい	※複数回答	・借上住宅 ・仮設住宅 ・復興公営住宅 ・借家・アパート ・親戚宅 ・持家 ・その他	4,049 1,869 1,608 3,952 735 24,243 506	— — — — — — —
3-2) 現在の避難状況	(有効回答 17,621人)	・震災前の住所の家に住んでいる ・避難指示解除区域ではあるが、震災前とは違う住所の家に住んでいる ・避難指示解除区域に住んでいない	7,923 4,506 5,192	45.0% 25.6% 29.5%
4) 勤務形態	(有効回答 35,190人)	・常勤・自営 ・パート ・無職(学生、専業主婦を含む)	9,570 2,878 22,742	27.2% 8.2% 64.6%
5) 現在のくらし向き	(有効回答 36,011人)	・苦しい ・やや苦しい ・普通 ・ややゆとりがある ・ゆとりがある	3,821 8,353 21,548 1,672 617	10.6% 23.2% 59.8% 4.6% 1.7%
6) 震災時の子どもとの同居状況	(有効回答 31,360人)	・はい (妊娠中) (就学前の子ども) (小学生の子ども) (中学生の子ども) (中学卒業以上の未成年の子ども) ・いいえ	5,013 456 2,099 1,829 890 1,320 26,347	16.0% — — — — — 84.0%
7) 現在の子どもの同居状況	(有効回答 30,546人)	・はい (妊娠中) (就学前の子ども) (小学生の子ども) (中学生の子ども) (中学卒業以上の未成年の子ども) ・いいえ	4,049 276 1,686 1,622 952 1,012 26,497	13.3% — — — — — 86.7%
問13 放射線の健康影響				
1) 放射線の健康影響に関する認識		・本文中に掲載 P②-35 表21		
2) 日常生活への支障	(有効回答 32,038人)	・しばしばあった ・時々あった ・まれにあった ・1度もなかった	1,504 4,345 6,670 19,519	4.7% 13.6% 20.8% 60.9%
問14 相談先について	(有効回答 36,506人)	・ある ・相談できる人や機関はない (内訳 ※本文中に掲載 P②-35 表22)	32,540 3,966	89.1% 10.9%

平成 28 年度 県民健康調査

「こころの健康度・生活習慣に関する調査」

支援実施報告

福島県立医科大学

放射線医学県民健康管理センター

(平成 30 年 6 月訂正版)

【 目 次 】

「こころの健康度・生活習慣に関する調査」支援実施報告

1.目	的	②-45	
2.対	象	②-45	
3.支 援 方 法	②-45	
	(1)個人結果通知		
	(2)電話による支援等		
4.支援対象者の選定基準	②-46	
	(1)電話による支援		
	(2)文書による支援		
	(3)パンフレット送付のみ		
5.支援と結果と分類	②-48	
6.結	果	②-49	
	(1)個人結果通知		
	(2)電話等支援対象者数及び支援実施者数		
	(3)子どもへの電話支援		
	(4)一般への電話支援		
7.ま	と	め	②-68

1. 目的

「こころの健康度・生活習慣に関する調査」における支援は、健康調査の結果をフィードバックし自身の健康管理に役立ててもらおうことと、こころの健康度及び生活習慣上、相談・支援の必要があると判断された方々に、状況把握と改善のための助言及び保健・医療機関につなぐことを目的とした。

2. 対象

平成 28 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の回答者のうち、電話や文書による相談・支援が必要だと判断された方。

また、本報告では、平成 29 年 10 月 31 日までに調査回答があり、同年 12 月 31 日までに支援を実施した方を集計対象とした。

0歳～3歳用 :平成 25 年 4 月 2 日から平成 28 年 4 月 1 日までに生まれた方

4歳～6歳用 :平成 22 年 4 月 2 日から平成 25 年 4 月 1 日までに生まれた方

小学生用 :平成 16 年 4 月 2 日から平成 22 年 4 月 1 日までに生まれた方

中学生用 :平成 13 年 4 月 2 日から平成 16 年 4 月 1 日までに生まれた方

一般用 :平成 13 年 4 月 1 日以前に生まれた方

以下、「子ども」は中学生以下の調査対象者、「一般」は一般調査対象者を指す。

3. 支援方法

(1)個人結果通知

平成 28 年度調査票を平成 29 年 2 月に発送し、同年 8 月 31 日までに回答があった方に対し、同年 9 月及び 10 月に個別に結果通知書を送付した。また、結果に関する相談・問い合わせ先として「こころの健康度・生活習慣に関する調査」専用ダイヤルを案内するとともに、放射線医学県民健康管理センターホームページに「結果通知書についての Q&A」を掲載した。

結果を通知した調査票区分別の項目内容は以下のとおりである。

調査票区分	通知項目
0歳～3歳	身長、体重、食習慣(1歳以上)、運動習慣(2歳以上)、就寝時刻
4歳～6歳	身長、体重、食習慣、運動習慣、就寝時刻、こころと行動のストレス反応(SDQ ^{*1})
小学生	身長、体重、食習慣、運動習慣、就寝時刻、こころと行動のストレス反応(SDQ)
中学生	身長、体重、食習慣、運動習慣、睡眠、こころと行動のストレス反応(SDQ)
一般	肥満度(BMI ^{*2})、食習慣、運動習慣、睡眠、こころのストレス反応(K6 ^{*3})

^{*1}SDQ:子どもの情緒と行動に関する尺度

^{*2}BMI:Body Mass Index(調査票内の身長及び体重から算出)

※³ K 6:気分の落ち込みや不安など、全般的な精神健康状態に関する尺度

なお、子どもの結果通知書には参考として、調査票記入日の月齢の身長体重標準値を記載した。

(2)電話による支援等

選定基準により、緊急性の高さや状態の重症度に応じ、臨床心理士、保健師、看護師等による「こころの健康支援チーム」が電話相談等を実施した。電話支援では対象者の健康状態に関して聞き取りを行うとともに、対象者が現在抱える問題を確認し、必要に応じて保健・医療機関等への受診勧奨を行った。

文書支援では、電話支援希望の有無を確認する返信用ハガキとともに、「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の専用ダイヤルを案内する文書を同封して送付した。また、生活習慣について支援が必要と判断された文書支援対象者には、生活習慣の改善を促すためのパンフレットとも合わせて送付した。返信されたハガキに電話支援希望の記載がある方、もしくは「こころの健康支援チーム」が返信内容から支援が必要と判断した方には電話支援を行った。

支援の選定基準は、調査回答内容について、以下に示すア尺度の得点、イ尺度以外の項目によって定めた。

4. 支援対象者の選定基準

(1) 電話による支援（以下、電話支援）

ア 尺度の得点による支援基準

子ども:SDQ^{※4}が20点以上に該当する方。

※⁴ SDQの適用年齢は4歳以上のため、0歳～3歳についてはSDQを用いず、(b)尺度以外の項目による支援を行った。

一般:K6が15点以上に該当する方、またはK6が13点～14点かつPCL-4^{※5}が12点以上の方。

※⁵ PCL-4:被災体験に対して時々起こる問題や訴え(トラウマ反応)に関する尺度

イ 尺度以外の項目による支援基準

子ども:自由記載及び欄外記載の内容から、支援が必要であると判断された方のうち、緊急性の高い方。

一般:生活習慣について以下に該当した方。

・高血圧(HT)または糖尿病(DM)の既往歴があり、通院をしていないと回答した方の中で、BMIが $27.5\text{kg}/\text{m}^2$ 以上の方(HT/DM・BMI)、あるいは飲酒量が週積算21合(一日飲酒量(合)×日数(週))以上の方(HT/DM・多量飲酒)。

・飲酒量が週積算21合以上かつ、CAGE(アルコール依存症に関する尺度)が4点満点中4点の方(飲酒ハイリスク)。

・自由記載及び欄外記載の内容から、支援が必要であると判断された方のうち、緊急性の高い方。

(2) 文書による支援（以下、文書支援）

ア 尺度の得点による支援基準

子ども:SDQ が 16 点以上(先行研究における基準値¹⁾)で、前述の電話支援の基準に該当しない方。

一般:K6 が 10 点以上(先行研究における基準値(気分・不安障害相当)²⁾)または、PCL-4 が 12 点以上で、前述の電話支援の基準に該当しない方。

イ 尺度以外の項目による支援基準

子ども:自由記載及び欄外記載の内容から、支援が必要であると判断された方のうち、緊急性の低い方。

一般:以下に該当した方。

- ・必要な医療を受診していない方、及び体重増加が 3kg 以上/年で BMI27.5 kg/m² 以上の方。

- ・飲酒量が週積算 21 合以上かつ CAGE が 2 点または 3 点の方。

- ・睡眠の質に満足しておらず日中に気分が滅入ったり活動量が低下したりする方。

- ・精神疾患の既往歴があり、通院状況について、通院していないまたは回答がない方。

- ・自由記載及び欄外記載の内容から、支援が必要であると判断された方のうち、緊急性の低い方。

(3) パンフレットの送付のみ

(1)、(2)の支援対象者を除き、下記の条件に当てはまる方に対してパンフレットを送付した。

一般:体重増加が 3kg 以上/年で、BMI25.0 以上 27.5 kg/m² 未満の方(軽度肥満)。
上記支援基準のいずれにも該当せず、CAGE が 2 点以上に該当する方。

5. 支援と結果の分類

電話支援では対象者の健康状態に関して聞き取りを行うとともに、対象者が現在抱える問題を確認した。

また、電話支援の対応に応じて「傾聴」「受診勧奨」「生活習慣指導」「心理教育」「電話での情報提供(対象者が必要とする社会資源について情報提供を行ったもの)」「その他」に分類した。

支援結果は、下記①のように「経過観察1」「経過観察2」「経過観察3」「支援希望なし」の4つに分類した。

支援後の対応については、下記②のように「継続支援」「外部連絡」「文書送付」「他部門の対応」に分類した。

①支援結果の分類

経過観察1	体調や環境面で状態の改善が確認できた場合や、サポート資源利用の有無が確認できた場合など、ご自身で対処がなされていると判断できるもの。
経過観察2	体調不良や震災時の影響を強く受けている方、社会・学校不適應や孤立されている方など、やや心配が残ると判断されるもの。
経過観察3	何らかの理由で状況確認が困難だったもの。
支援希望なし	支援は必要ないと、対象者から申し出があったもの。

②支援後の対応

継続支援	電話での継続支援が必要と判断されたもの。
外部連絡	対象者の状況から、市町村、ふくしま心のケアセンター等との情報共有による連携が必要と判断されたもの。
文書送付	こころのケア登録医師を受診するための紹介状や一覧表、県外での医療機関や相談機関の情報、かかりつけの医師に宛てた情報提供書等を支援対象者へ送付したもの。
他部門の対応	基本調査に関する質問や甲状腺検査についてなど、放射線医学県民健康管理センターの他の部門から回答することが望ましいと判断されたもの。

6. 結果

(1)個人結果通知

子どもの結果通知は、0歳～3歳が795人、4歳～6歳が888人、小学生が2,220人、中学生が999人の合計4,902人に送付した。また、一般の結果通知送付者は37,275人で、子どもと合計すると42,177人であった。

(2)電話等支援対象者数及び支援実施者数

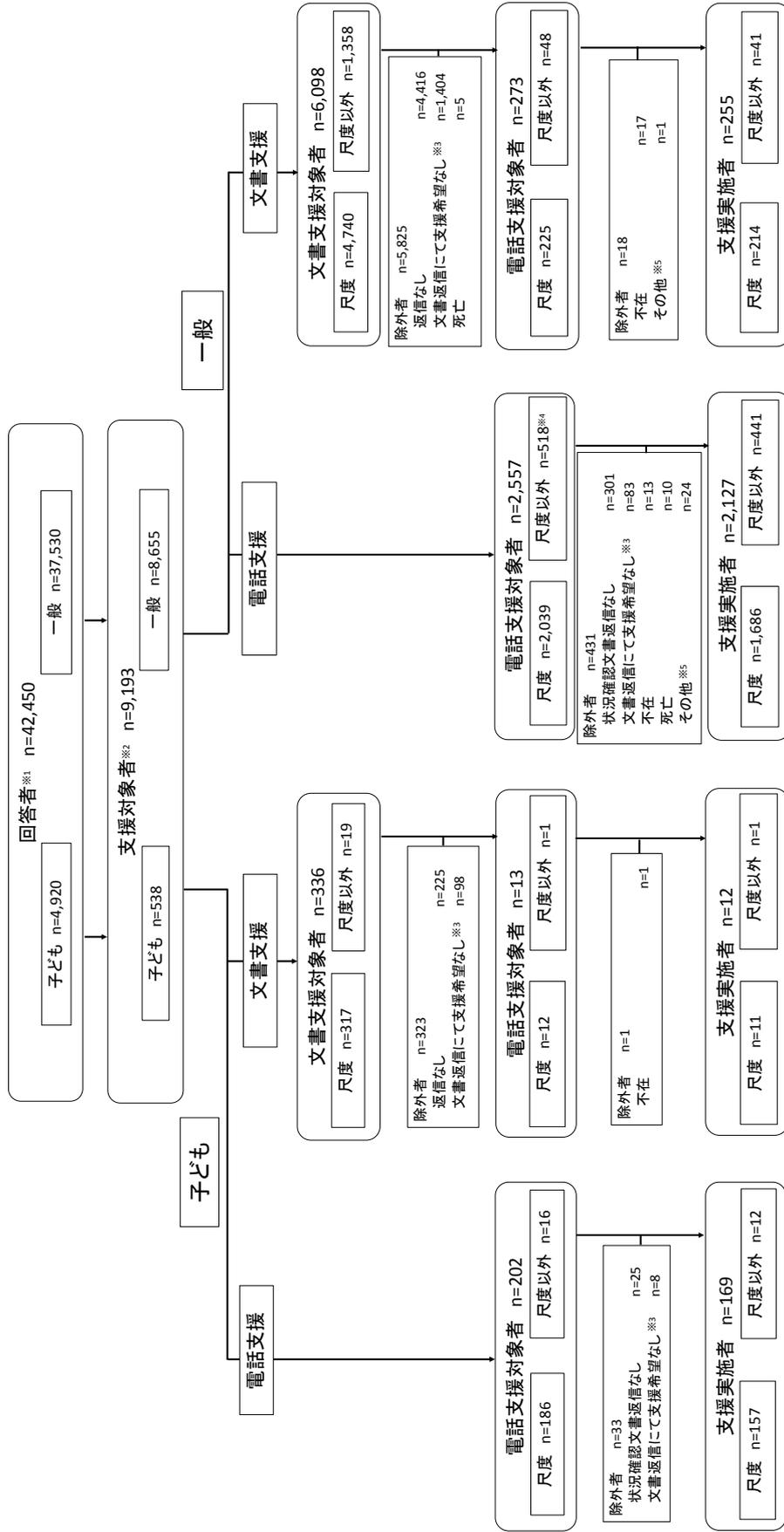
子どもの支援対象者は538人であり、その内訳は、電話支援対象者202人、文書支援対象者336人であった。文書支援対象者からの返信内容により、電話支援が必要と判断された方は13人であった。

一般の支援対象者は8,655人であり、その内訳は、電話支援対象者2,557人、文書支援対象者6,098人で、文書支援の結果、電話支援が必要と判断された方は273人であった。それに加え、パンフレット送付基準の軽度肥満に該当した方は330人、CAGEの問題飲酒の基準に該当した方は1,243人で合計1,573人であった。

死亡が確認された場合を除き、不在等で電話支援が実施できなかった方、及びパンフレット送付基準のみに該当した方については、当センターが作成した「こころの健康度と生活習慣サポートブック」を送付して情報提供を行った。

図1に、支援対象者数、支援実施者数の詳細を示す。なお、パンフレット送付基準のみに該当した方は図に含まない。

また、結果の表中の割合(%)は、端数処理を行っているため、合計が100%にならない場合がある。



※1 平成29年10月31日までの回答者を集計対象とした。
 ※2 平成29年12月31日までの支援対象者を集計対象とした。
 ※3 文書返信にて支援希望なし、はがき返信時に支援希望なしに○を付けた者は除外者とした。
 ※4 内、256人が生活習慣による電話支援の対象者
 ※5 電話支援の提供時間内で対応が困難だった方等

図1 支援対象者数及び支援実施者数(尺度は尺度による支援、尺度以外は尺度以外の項目による支援を指す)

(3) 子どもへの電話支援

ア 支援対象者の基本属性

子どもの支援対象者のうち、電話支援対象者が 202 人、文書支援対象者のうち電話支援の対象となった方が 13 人の計 215 人であった。支援対象者の基本属性は表 1 のとおりである。支援対象者の性別は、男児・男子が女児・女子より多く、調査時住所は、県内が県外より多かった。

表 1 基本属性(性別・調査時住所)

	全体	0歳～3歳	4歳～6歳	小学生	中学生
支援対象者数	215	5	38	114	58
男児・男子	139 (64.7%)	4 (80.0%)	22 (57.9%)	76 (66.7%)	37 (63.8%)
女児・女子	76 (35.3%)	1 (20.0%)	16 (42.1%)	38 (33.3%)	21 (36.2%)
県内	158 (73.5%)	5 (100.0%)	32 (84.2%)	80 (70.2%)	41 (70.7%)
県外	57 (26.5%)	0 (0.0%)	6 (15.8%)	34 (29.8%)	17 (29.3%)
支援実施者数	181	3	32	101	45
県内	129 (71.3%)	3 (100.0%)	27 (84.4%)	68 (67.3%)	31 (68.9%)
県外	52 (28.7%)	0 (0.0%)	5 (15.6%)	33 (32.7%)	14 (31.1%)

・平成28年度調査発送時点の住所

イ 対象者の状況

調査回答の訴えに基づき、現在問題になっていることについて電話により聞き取りを行った。その結果、71 人に問題が認められ、子どもは「学校に関すること」が最も多く、次いで「怒り・イライラ・暴力」「身体面の健康」が多かった。また、保護者の問題としては「学校に関すること」が最も多く、次いで「身体面の健康」「睡眠」が多かった。

さらに、支援対象者が直面している状況を、より包括的に把握することを目的に、児童精神医学を専門とする医師の助言を受けて作成した質問項目をもとに、聞き取りを行った。結果は表 2 のとおりである。「発達の問題」や「養育者の子育て不安」が多く挙げられた項目であった。また、精神科や心療内科等へ通院している方が 18 人(15.8%)であった。

表 2 電話支援を実施できた対象者の状況

支援実施者数	全体 181	0歳～3歳 3	4歳～6歳 32	小学生 101	中学生 45
睡眠の問題					
あり	10 (7.8%)	0 (0.0%)	1 (4.0%)	4 (5.8%)	5 (15.6%)
なし	118 (92.2%)	2 (100.0%)	24 (96.0%)	65 (94.2%)	27 (84.4%)
不明	53 -	1 -	7 -	32 -	13 -
食欲の問題					
あり	6 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (5.8%)	2 (6.7%)
なし	119 (95.2%)	2 (100.0%)	24 (100.0%)	65 (94.2%)	28 (93.3%)
不明	56 -	1 -	8 -	32 -	15 -
友人関係の問題					
あり	13 (11.4%)	0 (0.0%)	1 (4.8%)	10 (16.9%)	2 (6.3%)
なし	101 (88.6%)	2 (100.0%)	20 (95.2%)	49 (83.1%)	30 (93.8%)
不明	67 -	1 -	11 -	42 -	13 -
元気があるか					
あり	120 (98.4%)	2 (100.0%)	26 (96.3%)	61 (98.4%)	31 (100.0%)
なし	2 (1.6%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
不明	59 -	1 -	5 -	39 -	14 -
身体(化)症状					
あり	11 (10.3%)	0 (0.0%)	2 (8.7%)	6 (11.5%)	3 (10.0%)
なし	96 (89.7%)	2 (100.0%)	21 (91.3%)	46 (88.5%)	27 (90.0%)
不明	74 -	1 -	9 -	49 -	15 -
反抗					
あり	16 (16.2%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	12 (24.0%)	3 (10.7%)
なし	83 (83.8%)	2 (100.0%)	18 (94.7%)	38 (76.0%)	25 (89.3%)
不明	82 -	1 -	13 -	51 -	17 -
イライラ					
あり	10 (11.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (18.2%)	2 (7.7%)
なし	81 (89.0%)	2 (100.0%)	19 (100.0%)	36 (81.8%)	24 (92.3%)
不明	90 -	1 -	13 -	57 -	19 -

・「不明」は、電話支援時に確認の必要はないと判断されたもの

・割合は、「不明」を除外した合計に対して算出

表 2(続き) 電話支援を実施できた対象者の状況

	全体	0歳～3歳	4歳～6歳	小学生	中学生
支援実施者数	181	3	32	101	45
甘え					
あり	6 (7.0%)	0 (0.0%)	3 (15.8%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)
なし	80 (93.0%)	2 (100.0%)	16 (84.2%)	38 (92.7%)	24 (100.0%)
不明	95 -	1 -	13 -	60 -	21 -
退屈					
あり	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
なし	85 (100.0%)	2 (100.0%)	19 (100.0%)	39 (100.0%)	25 (100.0%)
不明	96 -	1 -	13 -	62 -	20 -
発達の問題					
あり	27 (22.9%)	0 (0.0%)	5 (19.2%)	19 (30.6%)	3 (10.7%)
なし	91 (77.1%)	2 (100.0%)	21 (80.8%)	43 (69.4%)	25 (89.3%)
不明	63 -	1 -	6 -	39 -	17 -
情緒・行動の問題					
あり	14 (13.5%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	9 (17.6%)	2 (6.9%)
なし	90 (86.5%)	2 (100.0%)	19 (86.4%)	42 (82.4%)	27 (93.1%)
不明	77 -	1 -	10 -	50 -	16 -
精神疾患					
あり	4 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (5.8%)	1 (3.6%)
なし	100 (96.2%)	2 (100.0%)	22 (100.0%)	49 (94.2%)	27 (96.4%)
不明	77 -	1 -	10 -	49 -	17 -
被災に関連したトラウマ反応					
あり	3 (3.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (6.3%)	0 (0.0%)
なし	96 (97.0%)	2 (100.0%)	21 (100.0%)	45 (93.8%)	28 (100.0%)
不明	82 -	1 -	11 -	53 -	17 -
学校(園)への適応状況					
適応	122 (91.7%)	2 (100.0%)	25 (96.2%)	65 (92.9%)	30 (85.7%)
不適応	11 (8.3%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	5 (7.1%)	5 (14.3%)
不明	48 -	1 -	6 -	31 -	10 -
家庭・環境の問題					
あり	4 (4.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (7.8%)	0 (0.0%)
なし	97 (96.0%)	2 (100.0%)	21 (100.0%)	47 (92.2%)	27 (100.0%)
不明	80 -	1 -	11 -	50 -	18 -
養育者の子育て不安					
あり	29 (25.2%)	1 (50.0%)	5 (20.8%)	19 (31.1%)	4 (14.3%)
なし	86 (74.8%)	1 (50.0%)	19 (79.2%)	42 (68.9%)	24 (85.7%)
不明	66 -	1 -	8 -	40 -	17 -
養育者の身体的健康					
良好	99 (93.4%)	2 (100.0%)	22 (100.0%)	50 (89.3%)	25 (96.2%)
不良	7 (6.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (10.7%)	1 (3.8%)
不明	75 -	1 -	10 -	45 -	19 -
養育者の精神的健康					
良好	97 (91.5%)	2 (100.0%)	22 (100.0%)	47 (85.5%)	26 (96.3%)
不良	9 (8.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (14.5%)	1 (3.7%)
不明	75 -	1 -	10 -	46 -	18 -
通院している病院の有無					
精神科／心療内科等	18 (15.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	14 (22.6%)	4 (13.3%)
精神科以外	8 (7.0%)	0 (0.0%)	1 (5.0%)	4 (6.5%)	3 (10.0%)
なし	88 (77.2%)	2 (100.0%)	19 (95.0%)	44 (71.0%)	23 (76.7%)
不明	67 -	1 -	12 -	39 -	15 -
利用している相談機関					
あり	26 (22.2%)	1 (33.3%)	5 (22.7%)	14 (23.3%)	6 (18.8%)
なし	91 (77.8%)	2 (66.7%)	17 (77.3%)	46 (76.7%)	26 (81.3%)
不明	64 -	0 -	10 -	41 -	13 -

・「不明」は、電話支援時に確認の必要はないと判断されたもの

・割合は、「不明」を除外した合計に対して算出

ウ 支援結果

電話支援結果は、表3のとおり。「経過観察1」は160人(88.4%)、「経過観察2」は10人(5.5%)、「経過観察3」は9人(5.0%)、「支援希望なし」は2人(1.1%)であった。

表3 電話支援結果

支援実施者数	全体 181	0歳～3歳 3	4歳～6歳 32	小学生 101	中学生 45
経過観察1	160 (88.4%)	3 (100.0%)	29 (90.6%)	87 (86.1%)	41 (91.1%)
経過観察2	10 (5.5%)	0 (0.0%)	3 (9.4%)	5 (5.0%)	2 (4.4%)
経過観察3	9 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (6.9%)	2 (4.4%)
支援希望なし	2 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (2.0%)	0 (0.0%)

・経過観察1: 体調や環境面で状態の改善が確認できた場合や、サポート資源利用の有無が確認できた場合など、自身で対処がなされていると判断できたもの

・経過観察2: 体調不良や震災時の影響を強く受けている方、社会・学校不適應や孤立している方など、やや心配が残ると判断されたもの

・経過観察3: 何らかの理由で状況確認が困難だったもの

「経過観察2」と判断した理由は、表4のとおり。子ども自身の問題と養育者が抱える問題に分けた場合、子どもは体調不良(精神)、学校不適應が多く、養育者は、養育上の問題が多かった。

表4 「経過観察2」の判断理由

「経過観察2」の件数	全体 10	0歳～3歳 0	4歳～6歳 3	小学生 5	中学生 2
<子ども>					
体調不良(身体)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)
体調不良(精神)	3 (30.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)
学校不適應	3 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (40.0%)	1 (50.0%)
その他	3 (30.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)
<養育者>					
体調不良(身体)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
体調不良(精神)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)
養育上の問題	3 (30.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	2 (40.0%)	0 (0.0%)
孤立	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

・内訳は延べ数

電話支援の中での対応内容を分類した結果は表5のとおり。「傾聴」が151人(83.4%)、「受診勧奨」が3人(1.7%)、「生活習慣指導」が3人(1.7%)、「心理教育」が13人(7.2%)、「電話での情報提供」が2人(1.1%)、「その他(状況確認のみ等)」が31人(17.1%)であった。

表 5 支援の対応内容の分類

	全体	0歳～3歳	4歳～6歳	小学生	中学生
支援実施者数	181	3	32	101	45
傾聴	151 (83.4%)	3 (100.0%)	30 (93.8%)	81 (80.2%)	37 (82.2%)
受診勧奨	3 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	2 (2.0%)	0 (0.0%)
生活習慣指導	3 (1.7%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	1 (1.0%)	1 (2.2%)
心理教育	13 (7.2%)	1 (33.3%)	2 (6.3%)	8 (7.9%)	2 (4.4%)
電話での情報提供	2 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	1 (2.2%)
その他(状況確認のみ等)	31 (17.1%)	0 (0.0%)	3 (9.4%)	19 (18.8%)	9 (20.0%)

・内訳は延べ数

支援後の対応は、「継続支援」、「外部連絡」、「他部門の対応」がそれぞれ1人であった(表6)。

表 6 支援後の対応

	全体	0歳～3歳	4歳～6歳	小学生	中学生
支援実施者数	181	3	32	101	45
継続支援	1 (0.6%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
外部連絡	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)
文書送付	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
他部門の対応	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)

・継続支援: 電話での継続支援が必要と判断されたもの。

・外部連絡: 対象者の状況から、市町村、ふくしま心のケアセンター等との情報共有による連携が必要と判断されたもの。

・文書送付: こころのケア登録医師を受診するための紹介状や一覧表、県外での医療機関や相談機関の情報、かかりつけの医師に宛てた情報提供書等を支援対象者へ送付したもの。

・他部門の対応: 基本調査に関する質問や甲状腺検査についてなど、放射線医学県民健康管理センターの他の部門から回答することが望ましいと判断されたもの。

(4) 一般への電話支援

ア 電話支援基準による支援

(ア) 支援対象者の基本属性

電話支援対象者は、尺度による支援の対象者 2,039 人と尺度以外の項目による支援の対象者 518 人の計 2,557 人であった。このうち、電話支援を実施できた方は 2,127 人(83.2%)であった。

電話支援対象者の性別及び年代の分布は表 7 のとおり。全体の性別では、女性の電話支援対象者が男性より多く、年代では、70 代の電話支援対象者が最も多かった。

表 7 電話支援対象者の性別及び年代の分布

年代	尺度による支援			尺度以外の項目による支援		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
10代	53	18 (34.0%)	35 (66.0%)	4	3 (75.0%)	1 (25.0%)
20代	115	37 (32.2%)	78 (67.8%)	24	10 (41.7%)	14 (58.3%)
30代	192	73 (38.0%)	119 (62.0%)	55	23 (41.8%)	32 (58.2%)
40代	216	98 (45.4%)	118 (54.6%)	74	48 (64.9%)	26 (35.1%)
50代	273	121 (44.3%)	152 (55.7%)	92	57 (62.0%)	35 (38.0%)
60代	396	197 (49.7%)	199 (50.3%)	143	96 (67.1%)	47 (32.9%)
70代	422	172 (40.8%)	250 (59.2%)	72	38 (52.8%)	34 (47.2%)
80代以上	372	147 (39.5%)	225 (60.5%)	54	24 (44.4%)	30 (55.6%)
合計	2,039	863 (42.3%)	1,176 (57.7%)	518	299 (57.7%)	219 (42.3%)

・平成28年4月1日現在

電話支援対象者の調査時住所は県内が2,039人(79.7%)、県外が518人(20.3%)であった。また、電話支援を実施できた方の居住地は、県内が1,709人(80.3%)、県外が418人(19.7%)であった(表8)。

表 8 電話支援対象者の調査時住所状況(県内外)

支援対象者数	全体	尺度による支援	尺度以外の項目による支援
	2,557	2,039	518
県内	2,039 (79.7%)	1,634 (80.1%)	405 (78.2%)
県外	518 (20.3%)	405 (19.9%)	113 (21.8%)
支援実施者数	2,127	1,686	441
県内	1,709 (80.3%)	1,364 (80.9%)	345 (78.2%)
県外	418 (19.7%)	322 (19.1%)	96 (21.8%)

・平成28年度調査発送時点の住所

(イ) 対象者の状況

調査回答の訴えに基づき、現在問題になっていることについて電話により聞き取りを行った。その結果、980 人に問題が認められ、「身体面の健康」についての問題が最も多く、次いで「睡眠」「抑うつ」の問題が多かった。

また、電話支援時にチェックリストを用いて支援対象者から聞き取った「体調」「睡眠状況」「通院状況」等の頻度と割合は表 9 のとおり。

現在の体調が不良な方は 1,048 人 (55.1%) であり、現在の睡眠状況が不良な方は 966 人 (53.2%) であった。

「通院状況」は、精神科や心療内科等へ通院している方が 318 人 (17.8%)、精神科や心療内科等以外の診療科へ通院している方が 1,063 人 (59.6%) であった。

表 9 電話支援を実施できた対象者の状況

支援実施者数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	2,127		1,686		441	
現在の体調						
良好	854	(44.9%)	574	(38.2%)	280	(70.0%)
不良	1,048	(55.1%)	928	(61.8%)	120	(30.0%)
不明	225	—	184	—	41	—
体調の変化						
改善	181	(10.6%)	140	(10.5%)	41	(10.9%)
変化なし	1,329	(77.9%)	1,038	(78.1%)	291	(77.4%)
悪化	177	(10.4%)	143	(10.8%)	34	(9.0%)
以前から問題なし	18	(1.1%)	8	(0.6%)	10	(2.7%)
不明	422	—	357	—	65	—
睡眠状況						
良好	851	(46.8%)	578	(40.4%)	273	(70.5%)
不良	966	(53.2%)	852	(59.6%)	114	(29.5%)
不明	310	—	256	—	54	—
睡眠の変化						
改善	142	(8.7%)	122	(9.7%)	20	(5.5%)
変化なし	1,386	(85.2%)	1,058	(83.9%)	328	(89.6%)
悪化	78	(4.8%)	70	(5.6%)	8	(2.2%)
以前から問題なし	21	(1.3%)	11	(0.9%)	10	(2.7%)
不明	500	—	425	—	75	—
通院状況						
精神科／心療内科等	318	(17.8%)	294	(20.9%)	24	(6.3%)
精神科以外	1,063	(59.6%)	876	(62.3%)	187	(49.2%)
なし	404	(22.6%)	235	(16.7%)	169	(44.5%)
不明	342	—	281	—	61	—
相談機関の有無						
あり	512	(32.5%)	415	(33.9%)	97	(27.6%)
なし	1,063	(67.5%)	809	(66.1%)	254	(72.4%)
不明	552	—	462	—	90	—
気持ちの落ち込み						
あり	746	(42.9%)	692	(50.8%)	54	(14.4%)
なし	991	(57.1%)	670	(49.2%)	321	(85.6%)
不明	390	—	324	—	66	—
被災に関連した不安・恐怖心(トラウマ反応)						
あり	119	(7.9%)	111	(9.8%)	8	(2.2%)
なし	1,383	(92.1%)	1,023	(90.2%)	360	(97.8%)
不明	625	—	552	—	73	—

・「不明」は、電話支援時に確認の必要はないと判断されたもの

・割合は、「不明」を除外した合計に対して算出

(ウ) 支援結果

電話支援を行った結果は、表 10 のとおり。「経過観察1」は 1,840 人(86.5%)、「経過観察2」は 183 人(8.6%)、「経過観察3」は 56 人(2.7%)、「支援希望なし」は 48 人(2.3%)であった。

表 10 電話支援結果

支援実施者数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	2,127		1,686		441	
経過観察1	1,840	(86.5%)	1,453	(86.2%)	387	(87.8%)
経過観察2	183	(8.6%)	149	(8.8%)	34	(7.7%)
経過観察3	56	(2.6%)	45	(2.7%)	11	(2.5%)
支援希望なし	48	(2.3%)	38	(2.3%)	10	(2.3%)

- ・経過観察1: 体調や環境面で状態の改善が確認できた場合や、サポート資源利用の有無が確認できた場合など、自身で対処がなされていると判断できたもの
- ・経過観察2: 体調不良や震災時の影響を強く受けている方、社会・学校不適応や孤立している方など、やや心配が残ると判断されたもの
- ・経過観察3: 何らかの理由で状況確認が困難だったもの

「経過観察2」と判断した理由は、表 11 のとおりであった。「体調不良(身体)」が 104 人(56.8%)、「体調不良(精神)」が 116 人(63.4%)、「社会不適応」が 6 人(3.3%)、「孤立」が 19 人(10.4%)であった。

表 11 「経過観察2」の判断理由

「経過観察2」の件数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	183		149		34	
体調不良(身体)	104	(56.8%)	85	(57.0%)	19	(55.9%)
体調不良(精神)	116	(63.4%)	97	(65.1%)	19	(55.9%)
社会不適応	6	(3.3%)	4	(2.7%)	2	(5.9%)
孤立	19	(10.4%)	16	(10.7%)	3	(8.8%)
その他	11	(6.0%)	8	(5.4%)	3	(8.8%)

・内訳は延べ数

支援の対応内容は「傾聴」が 1,846 人(86.8%)、「受診勧奨」が 156 人(7.3%)、「生活習慣指導」が 366 人(17.2%)、「心理教育」が 111 人(5.2%)、「電話での情報提供」が 52 人(2.4%)、「その他(状況確認のみ等)」が 227 人(10.7%)であった(表 12)。

表 12 支援の対応内容の分類

支援実施者数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	2,127		1,686		441	
傾聴	1,846	(86.8%)	1,448	(85.9%)	398	(90.2%)
受診勧奨	156	(7.3%)	54	(3.2%)	102	(23.1%)
生活習慣指導	366	(17.2%)	129	(7.7%)	237	(53.7%)
心理教育	111	(5.2%)	91	(5.4%)	20	(4.5%)
電話での情報提供	52	(2.4%)	16	(0.9%)	36	(8.2%)
その他(状況確認のみ等)	227	(10.7%)	205	(12.2%)	22	(5.0%)

・内訳は延べ数

支援後の対応は、「継続支援」が 204 人、「外部連絡」が 13 人、「文書送付」が 14 人、「他部門の対応」が 2 人であった(表 13)。

表 13 支援後の対応

支援実施者数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	2,127		1,686		441	
継続支援	204	(9.6%)	70	(4.2%)	134	(30.4%)
外部連絡	13	(0.6%)	8	(0.5%)	5	(1.1%)
文書送付	14	(0.7%)	13	(0.8%)	1	(0.2%)
他部門の対応	2	(0.1%)	1	(0.1%)	1	(0.2%)

・継続支援: 電話での継続支援が必要と判断されたもの。

・外部連絡: 対象者の状況から、市町村、ふくしま心のケアセンター等との情報共有による連携が必要と判断されたもの。

・文書送付: ころのケア登録医師を受診するための紹介状や一覧表、県外での医療機関や相談機関の情報、かかりつけの医師に宛てた情報提供書等を支援対象者へ送付したもの。

・他部門の対応: 基本調査に関する質問や甲状腺検査についてなど、放射線医学県民健康管理センターの他の部門から回答することが望ましいと判断されたもの。

イ 文書支援対象者中の電話支援

(ア) 支援対象者の基本属性（文書支援対象者中）

文書支援対象者のうち、返信されたハガキで電話支援希望の有無を確認し、支援希望の記載がある方、もしくは「こころの健康支援チーム」が返信内容から支援が必要と判断した方に対して、電話支援を行った。

電話支援の対象となった方は、尺度による支援の対象者 225 人と尺度以外の項目による支援の対象者 48 人の計 273 人であった。このうち、支援を実施できた方は 255 人(93.4%)であった。

電話支援対象者の性別及び年代の分布は表 14 のとおり。全体の性別では、男性が 132 名、女性が 136 名であった。年代では、70 代の電話支援対象者が最も多かった。

表 14 電話支援対象者の性別及び年代の分布(文書支援対象者中)

年代	尺度による支援			尺度以外の項目による支援		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
10代	2	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0	0 (0.0%)	0 (0.0%)
20代	5	0 (0.0%)	5 (100.0%)	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)
30代	9	4 (44.4%)	5 (55.6%)	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)
40代	16	8 (50.0%)	8 (50.0%)	6	2 (0.0%)	4 (0.0%)
50代	21	11 (52.4%)	10 (47.6%)	5	3 (60.0%)	2 (40.0%)
60代	44	17 (38.6%)	27 (61.4%)	22	15 (68.2%)	7 (31.8%)
70代	78	36 (46.2%)	42 (53.8%)	5	3 (60.0%)	2 (40.0%)
80代以上	50	27 (54.0%)	23 (46.0%)	6	4 (66.7%)	2 (33.3%)
合計	225	105 (46.7%)	120 (53.3%)	48	29 (60.4%)	19 (39.6%)

・平成28年4月1日現在

対象者の調査時住所は、県内が 228 人(85.1%)、県外が 40 人(14.9%)であった。そのうち、支援を実施できた方は、県内が 216 人(84.7%)、県外が 39 人(15.3%)であった(表 15)。

表 15 電話支援対象者の調査時住所状況(県内外)(文書支援対象者中)

	全体	尺度による支援	尺度以外の項目による支援
支援対象者数	268	222	46
県内	228 (85.1%)	186 (83.8%)	42 (91.3%)
県外	40 (14.9%)	36 (16.2%)	4 (8.7%)
支援実施者数	255	214	41
県内	216 (84.7%)	179 (83.6%)	37 (90.2%)
県外	39 (15.3%)	35 (16.4%)	4 (9.8%)

・平成28年度調査発送時点の住所

(イ) 対象者の状況（文書支援対象者中）

電話支援での対象者の訴えに基づき、現在問題になっていることについて聞き取りを行った。その結果、38 人に現在の問題が認められ、「身体面の健康」についての問題が最も多く、次いで「睡眠」「家族関係」の問題が多かった。

また、電話支援時にチェックリストを用いて支援対象者から聞き取った「体調」「睡眠状況」「通院状況」等の頻度と割合は表 16 のとおり。

現在の体調が不良な方は 115 人(51.3%)であり、現在の睡眠状況が不良な方は 94 人(45.4%)であった。

「通院状況」は、精神科や心療内科等へ通院している方が 24 人(11.7%)、精神科や心療内科等以外の診療科へ通院している方が 151 人(73.7%)であった。

表 16 電話支援を実施できた対象者の状況(文書支援対象者中)

支援実施者数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	255		214		41	
現在の体調						
良好	109	(48.7%)	88	(47.3%)	21	(55.3%)
不良	115	(51.3%)	98	(52.7%)	17	(44.7%)
不明	31	—	28	—	3	—
体調の変化						
改善	19	(9.4%)	16	(9.5%)	3	(8.8%)
変化なし	158	(78.2%)	134	(79.8%)	24	(70.6%)
悪化	25	(12.4%)	18	(10.7%)	7	(20.6%)
以前から問題なし	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
不明	53	—	46	—	7	—
睡眠状況						
良好	113	(54.6%)	91	(53.2%)	22	(61.1%)
不良	94	(45.4%)	80	(46.8%)	14	(38.9%)
不明	48	—	43	—	5	—
睡眠の変化						
改善	15	(7.9%)	12	(7.6%)	3	(8.8%)
変化なし	168	(88.0%)	139	(88.5%)	29	(85.3%)
悪化	5	(2.6%)	4	(2.5%)	1	(2.9%)
以前から問題なし	3	(1.6%)	2	(1.3%)	1	(2.9%)
不明	64	—	57	—	7	—
通院状況						
精神科／心療内科等	24	(11.7%)	21	(12.4%)	3	(8.6%)
精神科以外	151	(73.7%)	126	(74.1%)	25	(71.4%)
なし	30	(14.6%)	23	(13.5%)	7	(20.0%)
不明	50	—	44	—	6	—
相談機関の有無						
あり	68	(35.1%)	54	(33.8%)	14	(41.2%)
なし	126	(64.9%)	106	(66.3%)	20	(58.8%)
不明	61	—	54	—	7	—
気持ちの落ち込み						
あり	47	(23.3%)	40	(23.8%)	7	(20.6%)
なし	155	(76.7%)	128	(76.2%)	27	(79.4%)
不明	53	—	46	—	7	—
被災に関連した不安・恐怖心(トラウマ反応)						
あり	8	(4.1%)	6	(3.8%)	2	(5.7%)
なし	187	(95.9%)	154	(96.3%)	33	(94.3%)
不明	60	—	54	—	6	—

・「不明」は、電話支援時に確認の必要はないと判断されたもの

・割合は、「不明」を除外した合計に対して算出

(ウ) 支援結果（文書支援対象者中）

電話支援を行った結果は、表 17 のとおりである。「経過観察1」は 236 人(92.5%)、「経過観察2」は 15 人(5.9%)、「経過観察3」は 2 人(0.8%)、「支援希望なし」は 0 人(0%)であった。

表 17 電話支援結果(文書支援対象者中)

支援実施者数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	255		214		41	
経過観察1	236	(92.5%)	196	(91.6%)	40	(97.6%)
経過観察2	15	(5.9%)	13	(6.1%)	2	(4.9%)
経過観察3	2	(0.8%)	2	(0.9%)	0	(0.0%)
支援希望なし	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)

- ・経過観察1: 体調や環境面で状態の改善が確認できた場合や、サポート資源利用の有無が確認できた場合など、自身で対処がなされていると判断できたもの
- ・経過観察2: 体調不良や震災時の影響を強く受けている方、社会・学校不適応や孤立している方など、やや心配が残ると判断されたもの
- ・経過観察3: 何らかの理由で状況確認が困難だったもの

さらに、「経過観察2」と判断した理由は、表 18 のとおりである。「体調不良(身体)」が 10 人(66.7%)、「体調不良(精神)」が 5 人(33.3%)、「社会不適応」が 1 人(6.7%)、「孤立」が 2 人(13.3%)であった。

表 18 「経過観察2」の判断理由(文書支援対象者中)

「経過観察2」の件数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	15		13		2	
体調不良(身体)	10	(66.7%)	9	(69.2%)	1	(50.0%)
体調不良(精神)	5	(33.3%)	4	(30.8%)	1	(50.0%)
社会不適応	1	(6.7%)	1	(7.7%)	0	(0.0%)
孤立	2	(13.3%)	2	(15.4%)	0	(0.0%)
その他	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)

・内訳は延べ数

支援の対応内容は「傾聴」が 230 人(90.2%)、「受診勧奨」が 16 人(6.3%)、「生活習慣指導」が 32 人(12.5%)、「心理教育」が 10 人(3.9%)、「電話での情報提供」が 2 人(0.8%)、「その他」が 20 人(7.8%)であった(表 19)。

表 19 支援の対応内容の分類(文書支援対象者中)

支援実施者数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	255		214		41	
傾聴	230	(90.2%)	190	(88.8%)	40	(97.6%)
受診勧奨	16	(6.3%)	7	(3.3%)	9	(22.0%)
生活習慣指導	32	(12.5%)	15	(7.0%)	17	(41.5%)
心理教育	10	(3.9%)	5	(2.3%)	5	(12.2%)
電話での情報提供	2	(0.8%)	1	(0.5%)	1	(2.4%)
その他(状況確認のみ等)	20	(7.8%)	17	(7.9%)	3	(7.3%)

・内訳は延べ数

支援後の対応は、「継続支援」が 17 人、「文書送付」が 2 人であった(表 20)。

表 20 支援後の対応(文書支援対象者中)

支援実施者数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	255		214		41	
継続支援	17	(6.7%)	9	(4.2%)	8	(19.5%)
外部連絡	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
文書送付	2	(0.8%)	1	(0.5%)	1	(2.4%)
他部門の対応	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)

・継続支援: 電話での継続支援が必要と判断されたもの。

・外部連絡: 対象者の状況から、市町村、ふくしま心のケアセンター等との情報共有による連携が必要と判断されたもの。

・文書送付: こころのケア登録医師を受診するための紹介状や一覧表、県外での医療機関や相談機関の情報、かかりつけの医師に宛てた情報提供書等を支援対象者へ送付したもの。

・他部門の対応: 基本調査に関する質問や甲状腺検査についてなど、放射線医学県民健康管理センターの他の部門から回答することが望ましいと判断されたもの。

ウ 尺度以外の項目（生活習慣）による電話支援

(ア) 支援対象者の基本属性（尺度以外）

HT/DM・BMIの対象者が157人、HT/DM・多量飲酒の対象者が65人、HT/DM・BMI・多量飲酒の対象者が7人、飲酒ハイリスクの対象者が27人の計256人であった。支援の対象者のうち、男性が189人(73.8%)、女性が67人(26.2%)であった。年代では、最も多いのが60歳代で69人(27.0%)、次いで50歳代が61人(23.8%)、40歳代が53人(20.7%)であった。調査時住所は、県内が204人(79.7%)、県外が52人(20.3%)であった(表21)。

表21 尺度以外の項目による電話支援対象者の性別・年代及び調査時住所の分布

支援対象者数	全体 256	HT/DM・BMI 157	HT/DM・多量飲酒 65	HT/DM・BMI・多量飲酒 7	飲酒ハイリスク 27
性別					
男	189 (73.8%)	95 (60.5%)	63 (96.9%)	7 (100.0%)	24 (88.9%)
女	67 (26.2%)	62 (39.5%)	2 (3.1%)	0 (0.0%)	3 (11.1%)
年代					
10代	1 (0.4%)	1 (0.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
20代	11 (4.3%)	10 (6.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)
30代	30 (11.7%)	28 (17.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.4%)
40代	53 (20.7%)	31 (19.7%)	15 (23.1%)	2 (28.6%)	5 (18.5%)
50代	61 (23.8%)	32 (20.4%)	20 (30.8%)	1 (14.3%)	8 (29.6%)
60代	69 (27.0%)	34 (21.7%)	23 (35.4%)	3 (42.9%)	9 (33.3%)
70代	20 (7.8%)	15 (9.6%)	3 (4.6%)	1 (14.3%)	1 (3.7%)
80代以上	11 (4.3%)	6 (3.8%)	4 (6.2%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)
居住地					
県内	204 (79.7%)	124 (79.0%)	51 (78.5%)	6 (85.7%)	23 (85.2%)
県外	52 (20.3%)	33 (21.0%)	14 (21.5%)	1 (14.3%)	4 (14.8%)

・年代は平成28年4月1日を基準に算出

・居住地は平成28年度調査票送付時点の住所

(イ) 対象者の状況（尺度以外）

電話支援を実施できた方は、HT/DM・BMIの対象者が131人、HT/DM・多量飲酒の対象者が54人、HT/DM・BMI・多量飲酒の対象者が7人、飲酒ハイリスクの対象者が22人の計214人であった。支援対象者から、「運動」「食事」「飲酒/喫煙」についての問題意識を聞き取った。その結果は表22のとおりであった。

表22 電話支援実施者の生活習慣に対する問題意識の有無

支援実施者数	HT/DM・BMI 131	HT/DM・多量飲酒 54	HT/DM・BMI・多量飲酒 7	飲酒ハイリスク 22
214				
運動	71 (54.2%)	16 (29.6%)	3 (42.9%)	10 (45.5%)
食事	76 (58.0%)	22 (40.7%)	3 (42.9%)	10 (45.5%)
飲酒/喫煙	29 (22.1%)	31 (57.4%)	6 (85.7%)	14 (63.6%)

・複数回答あり

(ウ) 支援結果（尺度以外）

初回電話支援時点で、既に医療機関を受診している方などは、103 人(48.1%)であった。受診勧奨や生活習慣の改善など、継続支援の必要な方は 111 人(51.9%)で、HT/DM・BMI の対象者が 72 人、HT/DM・多量飲酒の対象者が 24 人、HT/DM・BMI・多量飲酒の対象者が 6 人、飲酒ハイリスクの対象者が 9 人であった(表 23)。

表 23 初回電話支援の結果

	全体	HT/DM・BMI	HT/DM・多量飲酒	HT/DM・BMI・多量飲酒	飲酒ハイリスク
支援実施者数	214	131	54	7	22
継続支援なし	103 (48.1%)	59 (45.0%)	30 (55.6%)	1 (14.3%)	13 (59.1%)
継続支援あり	111 (51.9%)	72 (55.0%)	24 (44.4%)	6 (85.7%)	9 (40.9%)

継続支援対象者 111 人のうち、継続支援実施者は 86 人(77.5%)で、HT/DM・BMI の対象者が 51 人、HT/DM・多量飲酒の対象者が 22 人、HT/DM・BMI・多量飲酒の対象者が 5 人、飲酒ハイリスクの対象者が 8 人であった。継続支援により、医療機関を受診や生活習慣の改善を確認できた方は 62 人(72.1%)で、HT/DM・BMI の対象者が 37 人、HT/DM・多量飲酒の対象者が 15 人、HT/DM・BMI・多量飲酒の対象者が 3 人、飲酒ハイリスクの対象者が 7 人であった。改善ありの内訳は、医療機関を受診した方が 29 人、生活習慣が改善した方が 50 人、医療機関を受診し、生活習慣も改善した方が 19 人であった(表 24)。

表 24 継続支援の結果

	全体	HT/DM・BMI	HT/DM・多量飲酒	HT/DM・BMI・多量飲酒	飲酒ハイリスク
継続支援対象者数	111	72	24	6	9
継続支援実施者数	86 (77.5%)	51 (70.8%)	22 (91.7%)	5 (83.3%)	8 (88.9%)
改善なし	24 (27.9%)	14 (27.5%)	7 (31.8%)	2 (40.0%)	1 (12.5%)
改善あり	62 (72.1%)	37 (72.5%)	15 (68.2%)	3 (60.0%)	7 (87.5%)
内訳*					
a.医療機関受診	29 (46.8%)	14 (37.8%)	7 (46.7%)	3 (100.0%)	5 (71.4%)
b.生活習慣改善	50 (80.6%)	35 (94.6%)	11 (73.3%)	2 (66.7%)	2 (28.6%)
a & b	19 (30.6%)	12 (32.4%)	3 (20.0%)	2 (66.7%)	2 (28.6%)

*改善内容については、データの重複あり

7. まとめ

電話支援により対象者の状況確認を行ったところ、問題として多く挙げられた内容は、子どもは「学校に関すること」「怒り・イライラ・暴力」「身体面の健康」(保護者は「学校に関すること」「身体面の健康」「睡眠」)であり、一般の支援対象者は、「身体面の健康」「睡眠」「抑うつ」であった。

これらの訴えに対する支援の対応内容は、子どもでは「傾聴」が最も多く、次いで「心理教育」であった。一般では、「傾聴」が最も多く、次いで「生活習慣指導」「受診勧奨」であった。

電話支援の結果、「経過観察2(社会・学校不適応や孤立している等の理由でやや心配が残ると判断された方)」に分類された割合は、子どもへの電話支援では5.5%であり、平成27年度調査(13.6%)と比較し減少した。また、一般への電話支援では、8.6%であり、平成27年度調査(12.5%)と比較し減少し、文書支援対象者についても、5.9%と平成27年度調査(6.6%)と比較し減少した。

「経過観察2」と判断した理由は、子どもでは「体調不良(精神)」「学校不適応」(保護者では「養育上の問題」)が多く、一般では「体調不良(身体)」「体調不良(精神)」が多かった。

また、電話支援で必要と判断された場合は、「継続支援」や「外部連絡」等の対応を行い、継続的な見守りや状況確認を行うとともに、地域の保健・医療機関へと繋いだ。特に、生活習慣支援基準で継続支援を行った方は、医療機関への受診や生活習慣の改善など行動変容が認められた方が7割程度おり、電話による一定の効果が認められた。

<参考文献>

- 1) Matsuishi T, et al. (2008) Scale properties of the Japanese version of the Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ): a study of infant and school children in community samples. *Brain and Development*. 30: 410-415.
- 2) 全国調査における K6 調査票による心の健康状態の分布と関連要因. 平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金(統計情報高度利用総合研究事業)国民の健康状況に関する統計情報を世帯面から把握・分析するシステムの検討に関する研究. 分担研究書

平成28年度結果概要 および調査結果の年次推移

こころの健康度・生活習慣に関する調査

専門的な支援が必要かどうかの判定(ハイリス
ク・アプローチ)のために以下の尺度を使用した。

- 【こども】情緒と行動(SDQ)
 - ・ 子どもの情緒と行動に関する25項目について、それぞれ過去半年間にどれくらいあてはまるかを尋ねた。
- 【一般】全般的な精神健康(K6)
 - ・ 気分の落ち込みや不安に関する6項目について、それぞれ過去30日間にどれくらい頻度であったかを尋ねた。
- 【一般】トラウマ反応(PCL-4)
 - ・ 被災の体験に対して時々起こる問題や訴え(トラウマ反応)に関する4項目について、それぞれ過去30日間にどれくらいあつたかを尋ねた。(PCLの短縮版で標準化している)

平成28年度結果概要

- 【子ども】健康状態、運動量、情緒と行動(SDQ)
- 【一般】健康状態、睡眠満足度、BMI、運動量、喫煙、飲酒、全般的な精神健康(K6)、トラウマ反応(PCL-4)、放射線の健康影響の認識、相談先

調査結果の年次推移

- 【全体】回答率
- 【子ども】情緒と行動(SDQ)
- 【一般】運動量、飲酒、全般的な精神健康(K6)、放射線の健康影響の認識

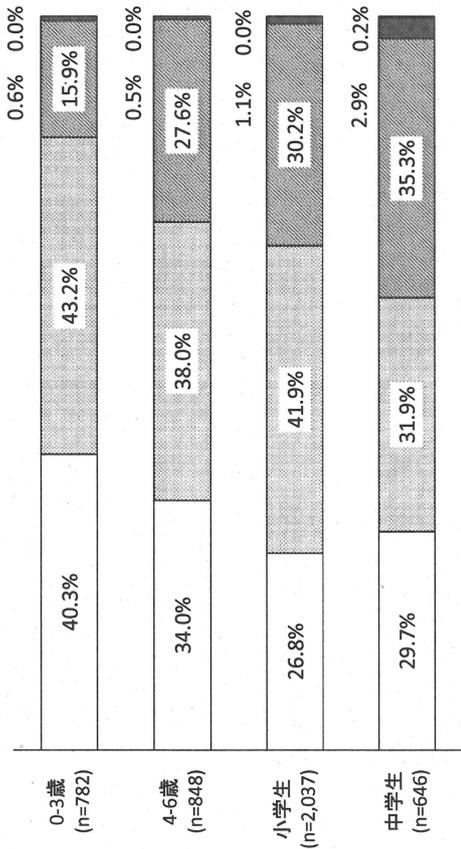
平成28年度結果概要

- 【子ども】*中学生以外は養育者記載
 - ・ 主観的健康状態*
 - ・ 普段の運動量*
 - ・ 情緒と行動(SDQ) 調査時住所別
- 【一般】
 - ・ 主観的健康状態
 - ・ 睡眠満足度
 - ・ BMI 男女別
 - ・ 普段の運動量
 - ・ 喫煙状況
 - ・ 飲酒状況
 - ・ 全般的な精神健康(K6) 調査時住所別
 - ・ トラウマ反応(PCL-4) 調査時住所別
 - ・ 放射線の健康影響についての認識
 - ・ 相談先

平成28年度結果概要【子ども】

主観的健康状態

(0歳～3歳、4歳～6歳、小学生、中学生：問1)

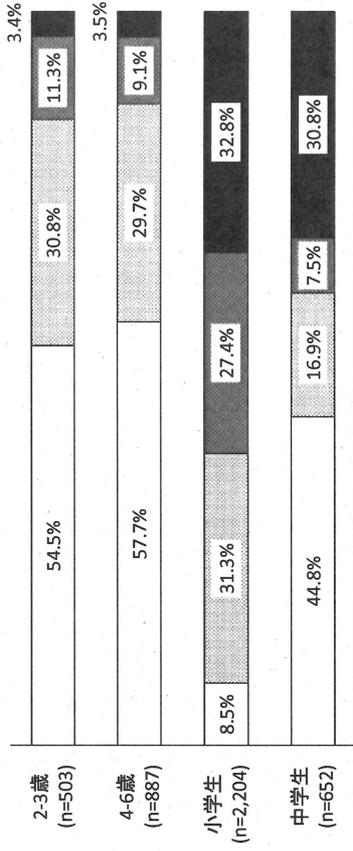


□きわめて良好 □良好 □普通 ■悪い ■きわめて悪い

平成28年度結果概要【子ども】

普段の運動量

(2歳～3歳、4歳～6歳、小学生、中学生：問6、中学生：問4)

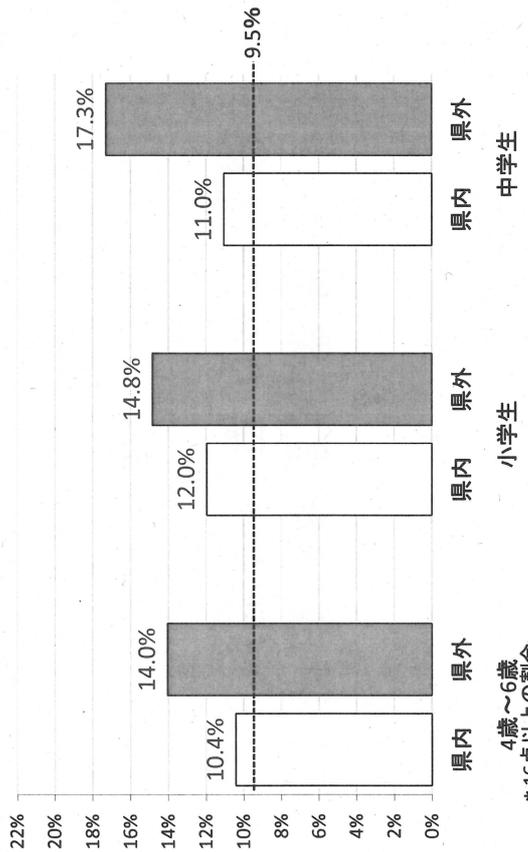


□ほとんど毎日している □週に2～4回している □週に1回程度している ■ほとんどしていない

* 2～3歳：お子様は普段、運動をどのくらいしていますか(室内外での走り回り、ボール蹴り、三輪車乗りなど)
 4～6歳：お子様は普段、運動をどのくらいしていますか(室内外での走り回り、ボール蹴り、自転車乗りなど)
 小学生：普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか(クラブ活動・部活動・スポーツ関連の習い事など)
 中学生：普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか(クラブ活動・部活動・スポーツ関連の習い事など)

平成28年度結果概要【子ども】

情緒と行動(SDQ)調査時住所別



4歳～6歳
 * 16点以上の割合
 * 非被災地における16点以上の割合は9.5% (Matsuishi et al., 2008)

平成28年度結果概要【一般】

主観的健康状態(問1; n=32,176)

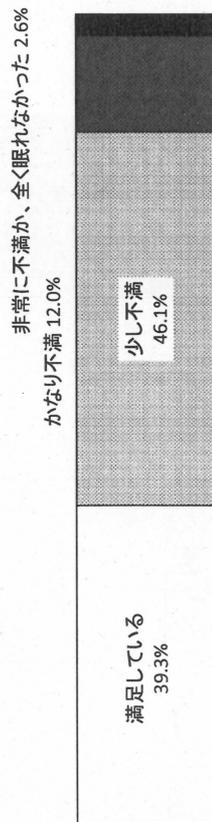


きわめて良好 4.2%

きわめて悪い 1.6%

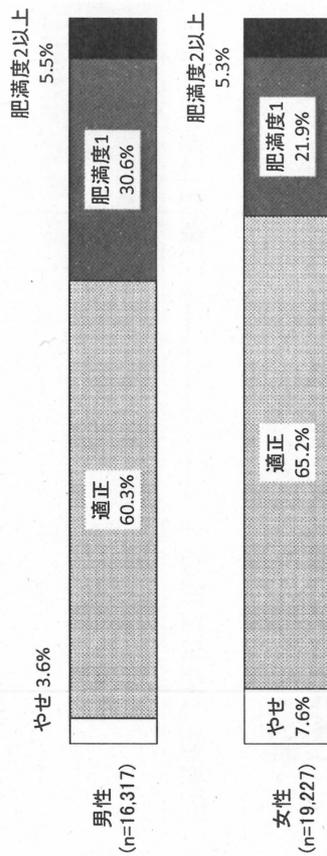
平成28年度結果概要【一般】

睡眠満足度(問4; n=32,320)



平成28年度結果概要【一般】

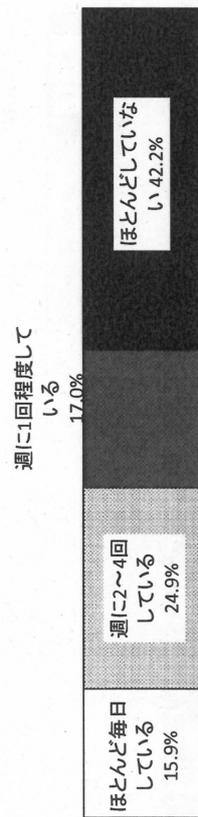
BMI(問2)



- やせ (18.5kg/m²未満)
- ▨ 適正 (18.5kg/m²以上 25.0kg/m²未満)
- 肥満度1 (25.0kg/m²以上 30.0kg/m²未満)
- 肥満度2以上 (30.0kg/m²以上)

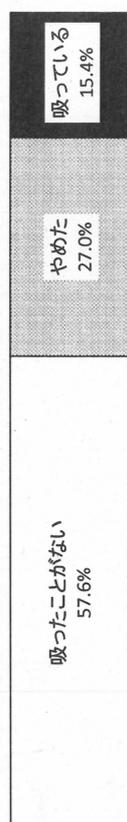
平成28年度結果概要【一般】

普段の運動量(問5; n=36,657)



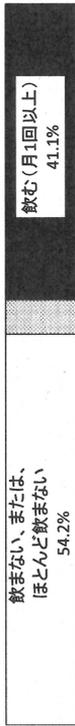
平成28年度結果概要【一般(20歳以上)】

喫煙状況(問6; n=35,045)

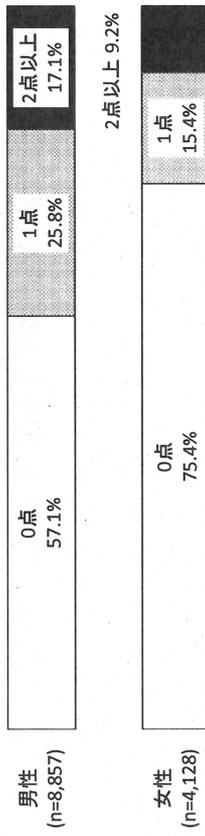


平成28年度結果概要【一般(20歳以上)】
飲酒状況(問7:n=35,220)

やめた 4.8%



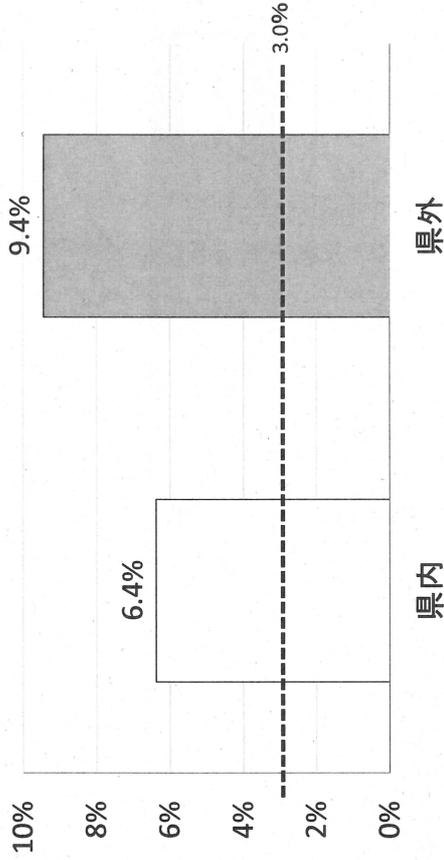
問題飲酒について(問7(CAGE))



* 2点以上: 問題飲酒の可能性が高い

平成28年度結果概要【一般】

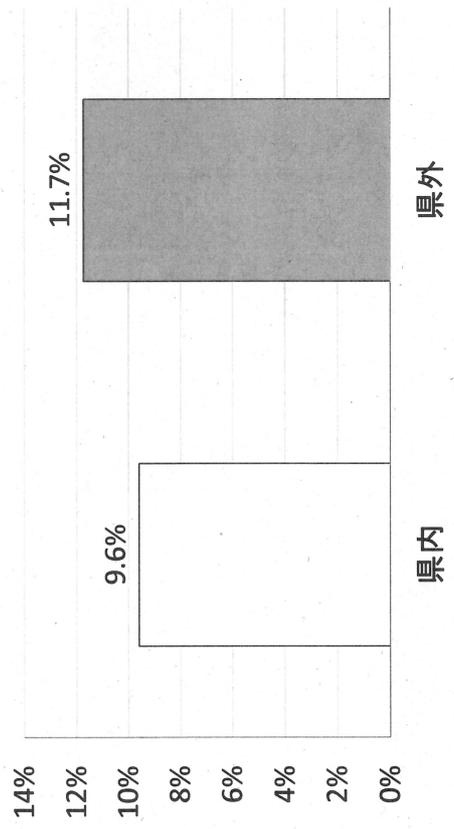
全般的な精神健康状態(K6) 調査時住所別



* 13点以上の割合

* 日本の一般人口における13点以上の割合は3.0%(川上, 2007)

平成28年度結果概要【一般】
トラウマ反応(PCL-4) 調査時住所別

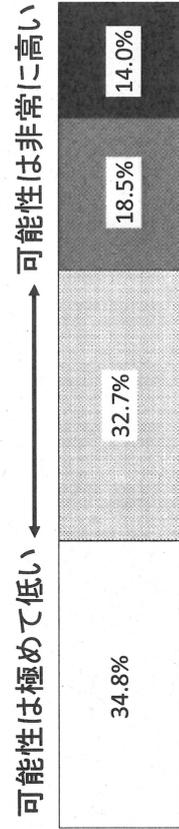


* 12点以上の割合

平成28年度結果概要【一般】

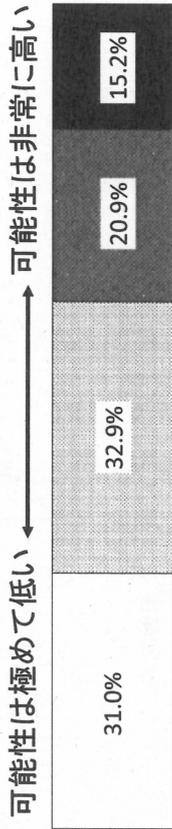
放射線の健康影響についての認識1 (問12)

- 1) 「現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康障害(例えばがんの発症など)がどのくらい起こると思いますか」 (n=31,344)

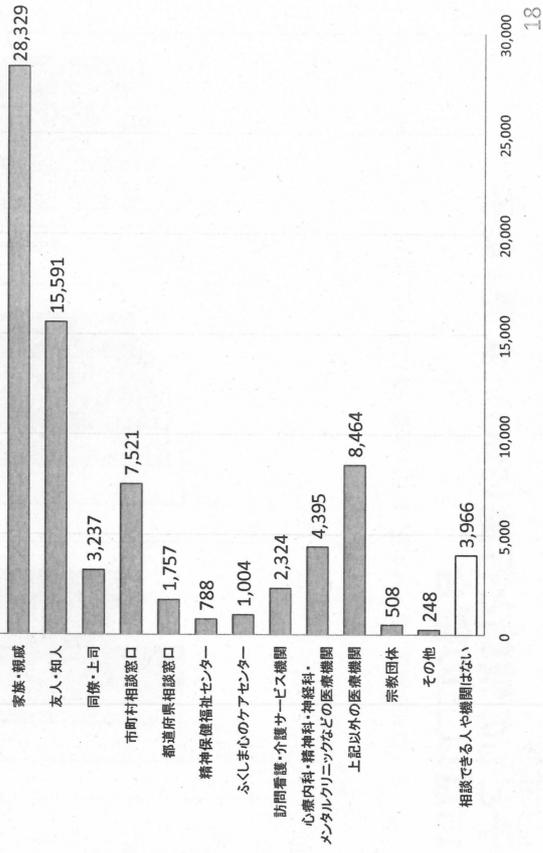


放射線の健康影響についての認識2 (問12)

2) 「現在の放射線被ばくで、次世代以降の人
(将来生まれてくる自分の子や孫など)への影響が
どれくらい起こると思いますか」(n=30,783)



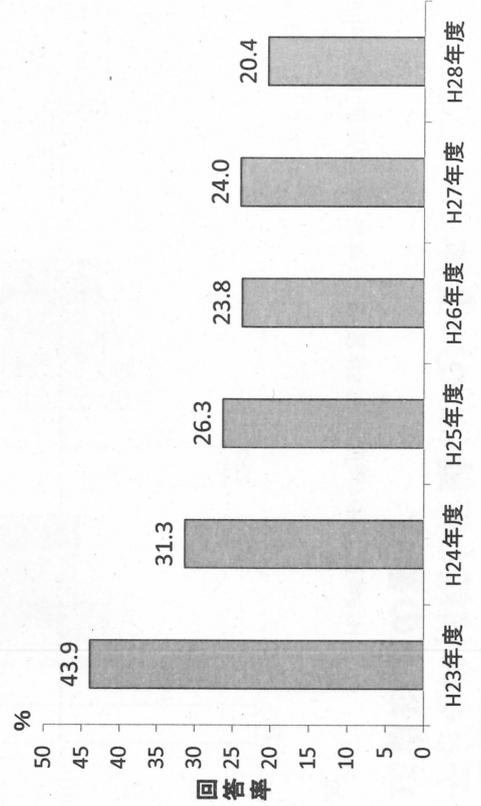
心身の問題についての相談先 (問13; 複数回答)



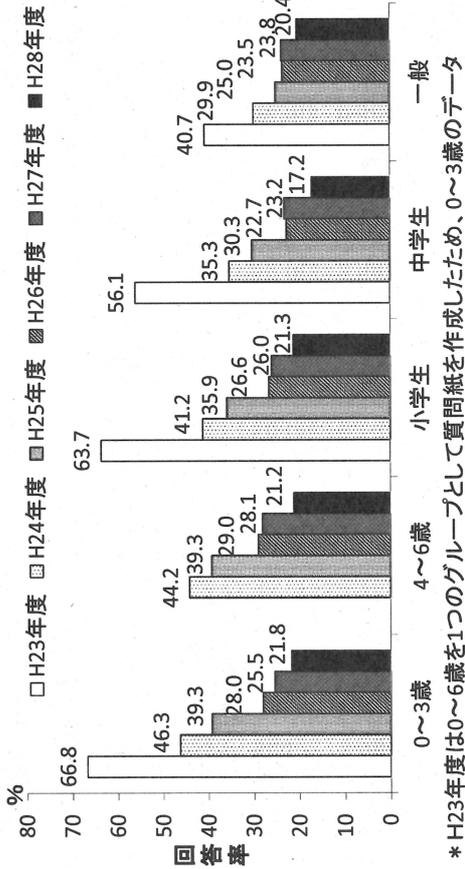
調査結果の年次推移

- 回答率: 平成23～28年度
- 【子ども】
- 情緒と行動(SDQ): 平成23～28年度
- 【一般】
- 普段の運動量: 平成23～28年度
- 問題飲酒: 平成24～28年度
- 全般的な精神健康(K6): 平成23～28年度
- 放射線の健康影響の認識: 平成23～28年度

年次推移 回答率



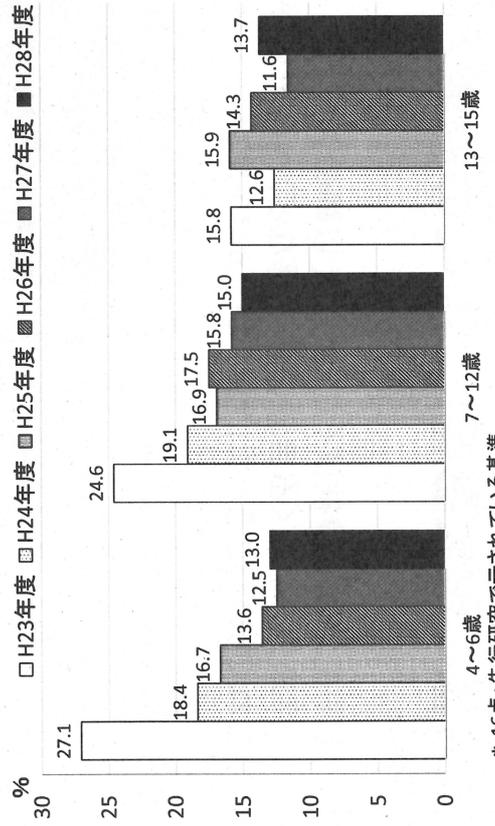
年次推移 回答率：区分別



* H23年度は0～6歳を1つのグループとして質問紙を作成したため、0～3歳のデータに4～6歳のデータも含まれている。

21

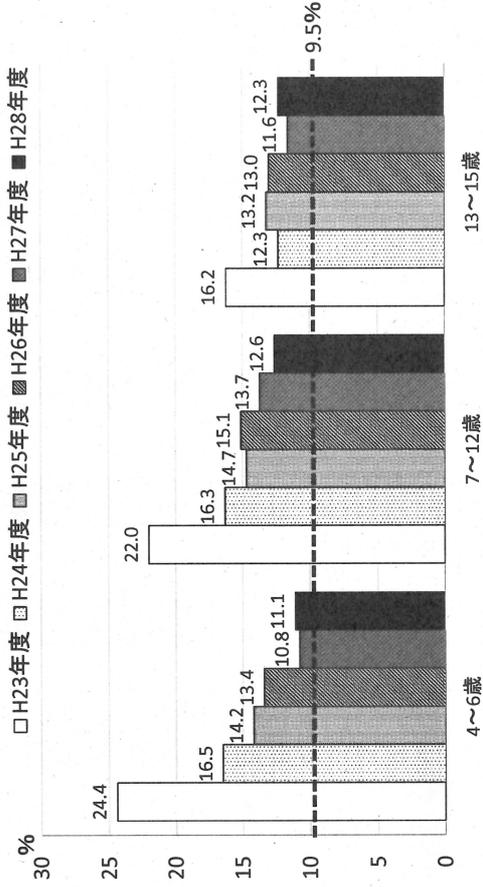
年次推移 子どもの情緒と行動(SDQ)：男児・男子 16点以上の割合



* 16点：先行研究で示されている基準
* 非被災地における16点以上の割合は9.5% (Matsuishi et al., 2008)

23

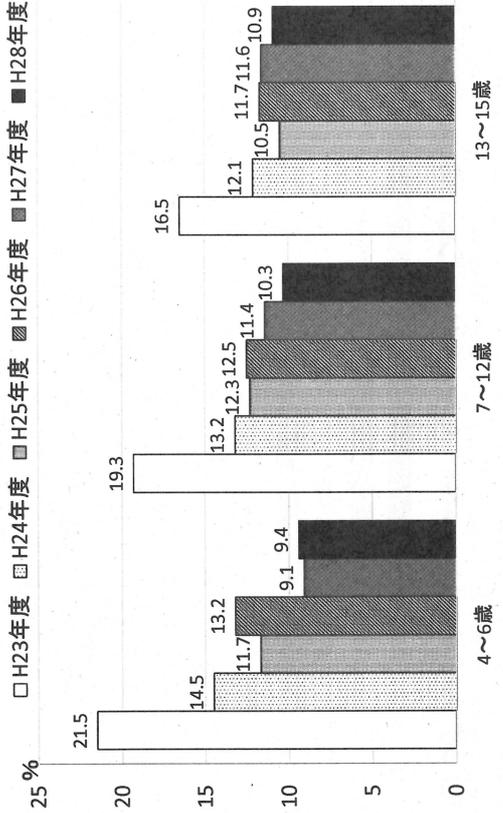
年次推移 子どもの情緒と行動(SDQ)：全体 16点以上の割合



* 16点：先行研究で示されている基準
* 非被災地における16点以上の割合は9.5% (Matsuishi et al., 2008)

22

年次推移 子どもの情緒と行動(SDQ)：女児・女子 16点以上の割合

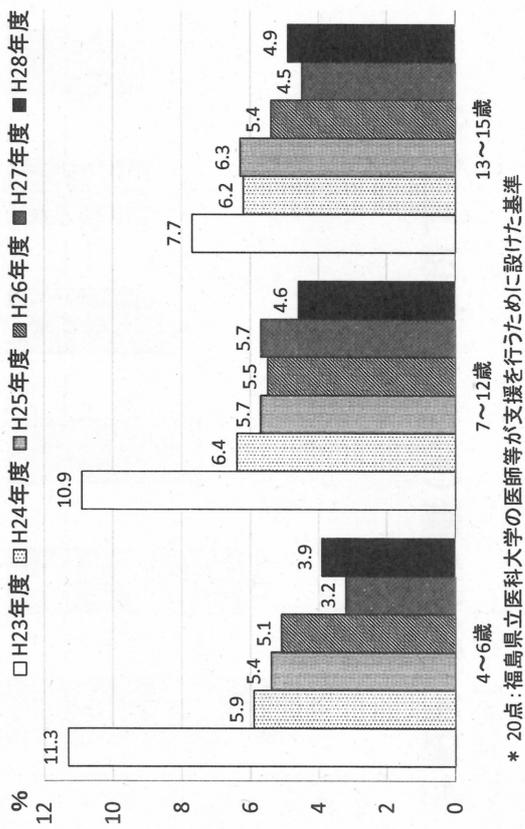


* 16点：先行研究で示されている基準
* 非被災地における16点以上の割合は9.5% (Matsuishi et al., 2008)

24

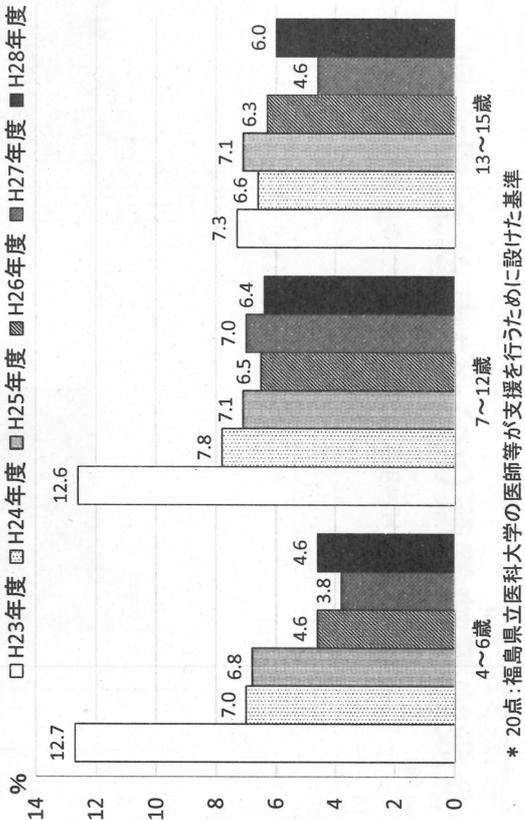
年次推移

子どもの情緒と行動(SDQ): 全体
20点以上の割合



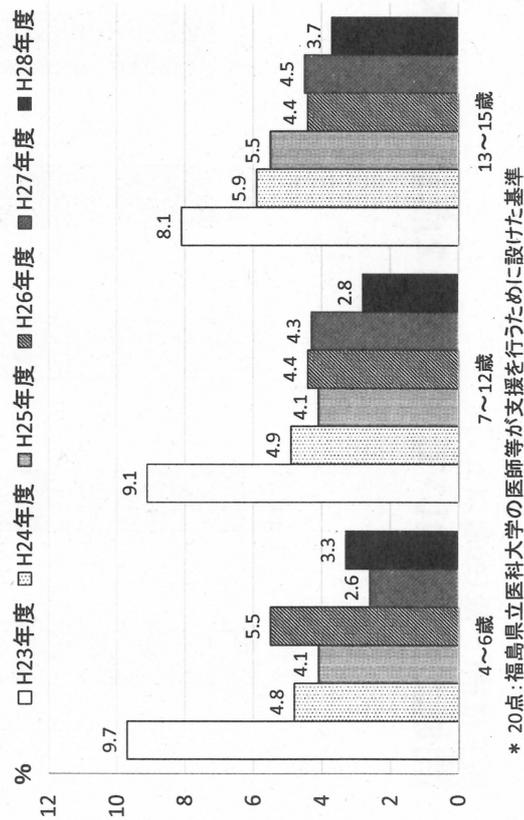
年次推移

子どもの情緒と行動(SDQ): 男児・男子
20点以上の割合



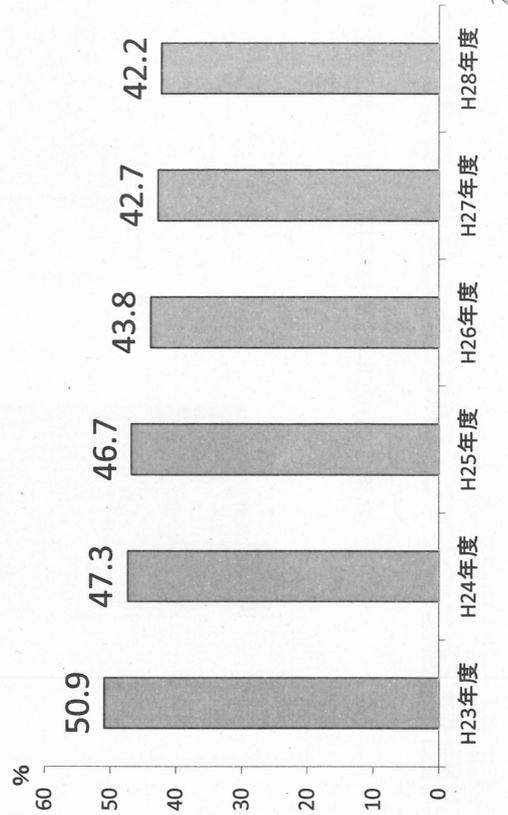
年次推移

子どもの情緒と行動(SDQ): 女児・女子
20点以上の割合

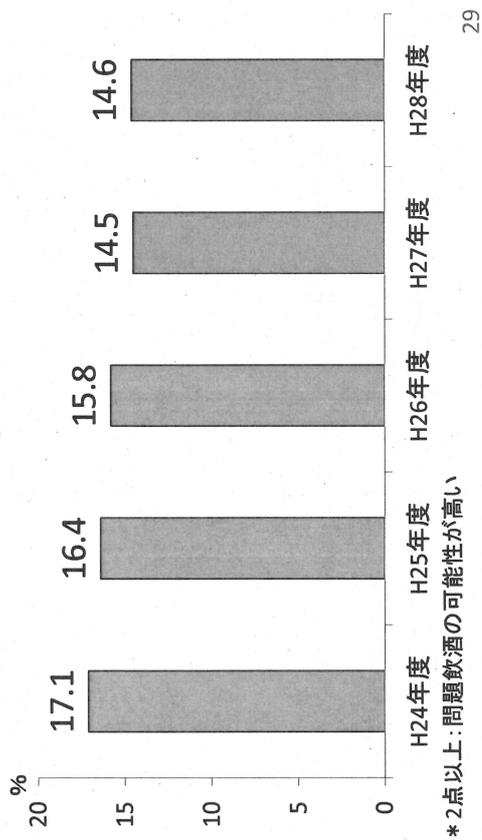


年次推移【一般】

普段の運動量: 「ほとんどしていない」

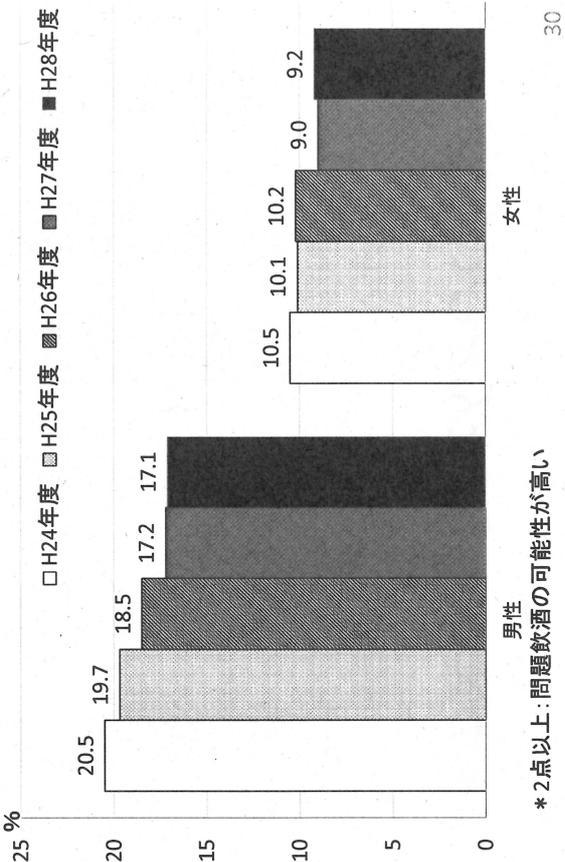


年次推移【一般(20歳以上)】
問題飲酒について(CAGE):2点以上 全体



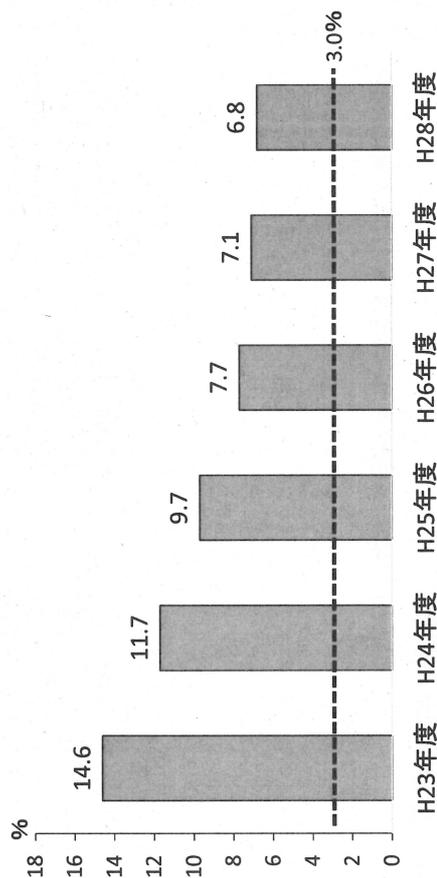
29

年次推移【一般(20歳以上)】
問題飲酒について(CAGE):2点以上 男女別



30

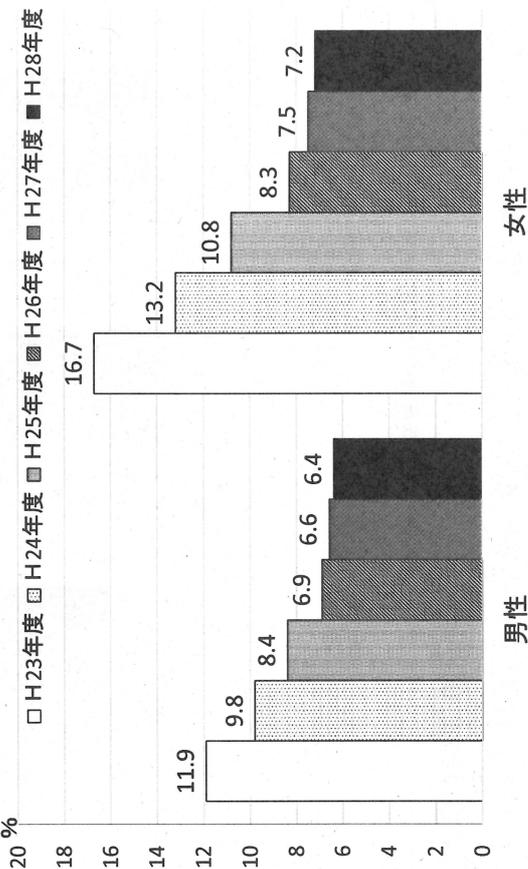
年次推移【一般】
全般的な精神健康(K6):13点以上 全体



* 日本の一般人口における13点以上の割合は3.0%(川上, 2007)

31

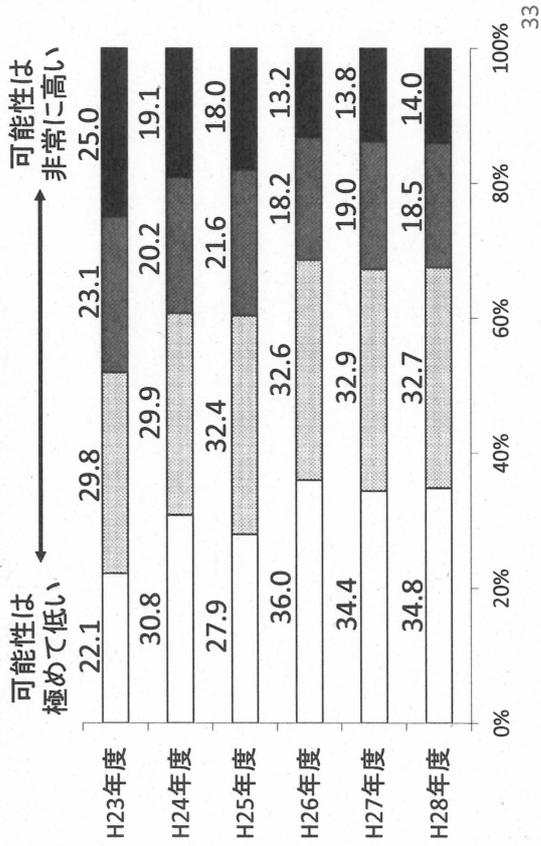
年次推移【一般】
全般的な精神健康(K6):13点以上 男女別



32

年次推移【一般】

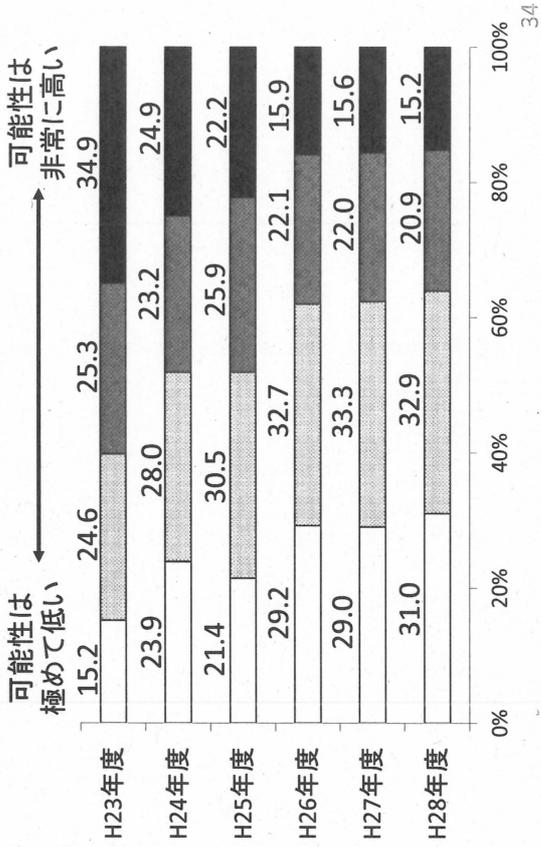
放射線リスク認知（後年影響）



33

年次推移【一般】

放射線リスク認知（次世代影響）



34